

2024年1月26日

**知るぽると**

www.shiruporuto.jp

金融広報中央委員会  
(事務局 日本銀行情報サービス局内)

## 「15歳のお金と暮らしに関する知識・行動調査2023年」の結果

(はじめに)

15歳のお金と暮らしに関する知識・行動調査は、義務教育を終えた子どものお金と暮らしや金融に関する知識・判断力（金融リテラシー）の状況を把握することを目的とする調査である。

(目次)

1. 調査の概要	2 頁
2. 調査結果の要旨	4 頁
3. 調査結果	12 頁
(1) 15歳の金融リテラシーの現状	12 頁
(2) 15歳のお金に関する行動・考え方	15 頁
① おこづかい・お年玉、貯金、お金の管理	15 頁
② キャッシュレス	17 頁
③ 買い物、自分の持ち物の売却、トラブル	18 頁
④ インターネット、ニュース	21 頁
⑤ 保護者との会話	23 頁
⑥ お金を巡る態度	24 頁
⑦ 金融経済の基礎、資産形成、保険の理解	25 頁
⑧ 学校での金融教育	26 頁
⑨ 進路、職業選択	28 頁
(3) 金融リテラシースコアの階層別にみた特徴	29 頁
【BOX 1】 成年年齢引き下げについて	35 頁
【BOX 2】 金融リテラシー調査2022年との比較	36 頁
4. 今後の課題	38 頁
5. 調査要綱	44 頁
6. 調査票（単純集計データ）	45 頁

### 【調査概要】

調査実施期間 : 2023年6月15日(木)～7月14日(金)

調査対象 : 全国の高等学校1年生 3,000人

調査方法 : インターネット・モニター調査

(本件に関する照会先)

金融広報中央委員会事務局

河合、岸、浜口、早川、中島 (直通 : 03- 3277-3033)

## 1. 調査の概要

(趣旨)

- ・ 15 歳のお金とくらしに関する知識・行動調査は、義務教育終了段階の子どもの年齢層別目標における金融に関する知識・判断力（金融リテラシー）の状況を把握するために実施したアンケート調査である。

(調査方法)

- ・ 義務教育を終了した高校 1 年生について 3,000 人を対象にインターネットによるアンケート調査を実施した。地域別の回答者は、わが国の 15 歳人口構成とほぼ同一の割合になるようにした。

(設問の特徴)

- ・ 設問は、「金融リテラシー・マップ<sup>※</sup>（図表 1）」の 8 分類に基づいた金融リテラシーにかかる知識と望ましい行動に関する設問（42 問）（図表 2）と、お金とくらしに関する行動・考え方等を問う設問（45 問）で構成。

※ 金融経済教育推進機構（事務局：金融広報中央委員会）が作成した「最低限身に付けるべき金融リテラシー」の「項目別・年齢別スタンダード」

- ・ 「子どものくらしとお金に関する調査」（以下「子ども調査」）、「金融リテラシー調査」と一部同じ設問をもうけることで比較が可能としている（両調査の概要は後掲参考 1）。

(図表 1) 金融リテラシー・マップ（抜粋）

分野	分類	小学生	中学生
		社会の中で生きていく力の素地を形成する時期	将来の自立に向けた基本的な力を養う時期
家計管理	家計管理	必要なもの（ニーズ）と欲しいもの（ウォンツ）を区別し、計画を立てて買物ができる	家計の収入・支出について理解を深め、学校活動等を通じて収支管理を実践する
生活設計	生活設計	働くことを通してお金を得ることおよび将来を考え金銭を計画的に使うことの大切さを理解し、貯蓄する態度を身に付ける	勤労に関する理解を深めるとともに、生活設計の必要性を理解し、自分の価値観に基づいて生活設計を立ててみる

(図表 1) 金融リテラシー・マップ (抜粋) 続き

分野	分類	小学生	中学生
		社会の中で生きていく力の素地を形成する時期	将来の自立に向けた基本的な力を養う時期
金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択	金融取引の基本としての素養	小学生が巻き込まれる金融トラブルの実態について知り、消費生活に関する情報を活用して比較・選択する力を身に付ける	契約の基本を理解し、悪質商法等を見分け、被害に遭わないようにする
	金融分野共通	暮らしを通じてお金の様々な働きを理解する	お金や金融・経済の基本的な役割を理解する
	保険商品	事故や疾病等が生活に大きな影響を与えることを理解し、自らも安全に行動する 不測の事態に備える方法として貯蓄以外に保険があることを理解する	リスクを予測して行動するとともに、人を負傷させたり、人の物を壊した場合には弁償しなければならないことを理解する 事故や病気のリスクや負担を軽減させる手段のひとつに保険があることを理解する
	ローン・クレジット	子ども同士でお金の貸し借りはしないようにする	ローン等の仕組みや留意点について理解する
	資産形成商品	金利計算（単利）などを通じて、主な預金商品とその利息の違いについて理解する	リスクとリターンの関係について理解する 金利計算（複利）を理解し、継続して貯蓄・運用に取り組む態度を身に付ける
外部の知見の適切な活用	外部の知見の適切な活用	困ったときにはすぐに身近な人に相談する態度を身に付ける	トラブルに遭ったときの相談窓口に、必要に応じて連絡する方法を身に付ける

(図表 2) 金融リテラシーにかかる設問の構成

		設問数	知識	
			知識	望ましい行動
家計管理		4問	3問	1問
生活設計		4問	3問	1問
金融知識	金融取引の基本	9問	4問	5問
	金融・経済の基礎	14問	14問	0問
	保険	2問	1問	1問
	ローン・クレジット	3問	3問	0問
	資産形成	3問	3問	0問
外部の知見活用		3問	1問	2問
合計		42問	32問	10問

## 2. 調査結果の要旨

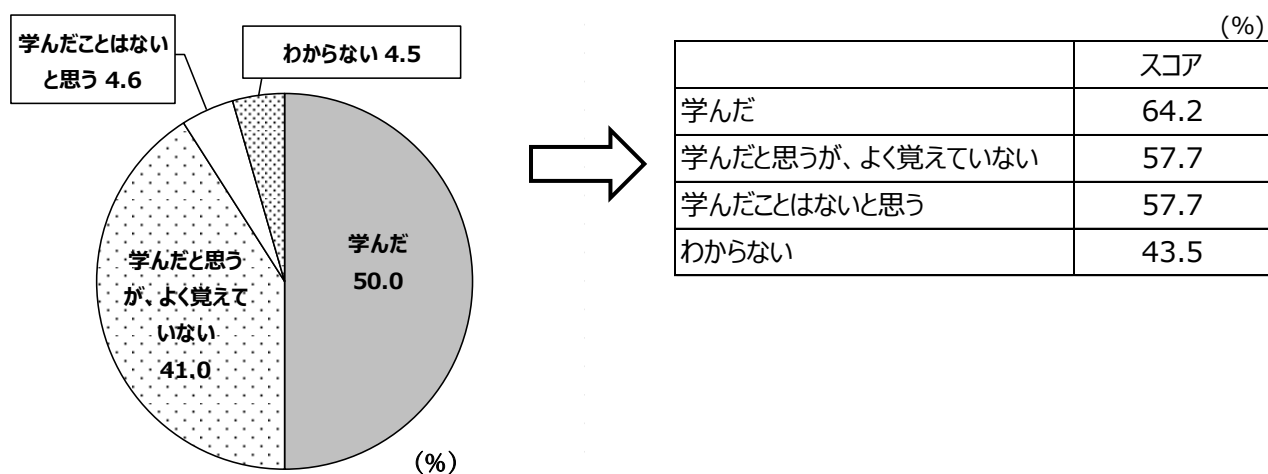
### (金融リテラシーにかかる特徴)

- 金融リテラシーを問う設問への回答をもとに作成した金融リテラシースコア（以下スコア）は、全体で60.3%。（図表3）
- スコアを金融リテラシー・マップの分類別で見ると、「保険」が81.1%、「金融・経済の基礎」が68.8%と高かった一方で、「生活設計」が35.7%、「ローン・クレジット」が42.2%、「資産形成」が46.9%と、50%を下回った。（図表3）
- 中学校の授業でお金（家計・暮らし）について、「学んだ」との回答が50.0%となった。「学んだ」と回答した人のスコアは64.2%と、全体（60.3%）を上回った。（図表4）

(図表3) 金融リテラシー・マップの分類別スコア

		全体 (%)		
		全体	知識	望ましい行動
家計管理		65.6	62.6	74.8
生活設計		35.7	42.9	14.1
金融知識	金融取引の基本	62.0	60.3	63.4
	金融・経済の基礎	68.8	68.8	-
	保険	81.1	80.5	81.7
	ローン・クレジット	42.2	42.2	-
	資産形成	46.9	46.9	-
外部の知見活用		58.7	53.4	61.4
合計		60.3	60.1	61.0

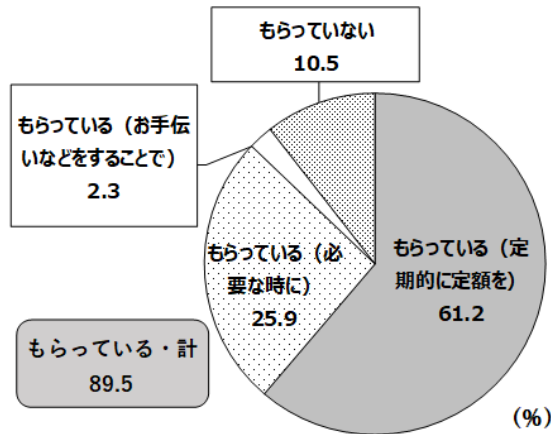
(図表4) 中学校の授業でお金（家計・暮らし）のことを学んだか（Q20\_1）と回答別スコア



**(おこづかいとお年玉の使い方)**

- ・「おこづかい」をもらっている人は、89.5%（平均値は4,787円/月）。そのうち「おこづかい」を貯金している人の割合は63.1%。（図表5）
- 「おこづかい」について、使い方では特に計画を持たない人が8割近くとなっており、もらい方（「定期的に定額」、「必要な時に」等）でのスコアには、大きな違いはみられない。（図表5、6）
- ・「お年玉」をもらった人は96.9%（平均値は32,853円）。そのうち「お年玉」を貯金している人の割合は81.0%。（図表7）

(図表5) おこづかいの有無・金額・使い方 (Q1\_1、3、4)



【1か月のおこづかい額】

平均値 (円)	中央値 (円)	最頻値 (円)
4,787	5,000	5,000

(「おこづかいをもらっている人」※の使い方)

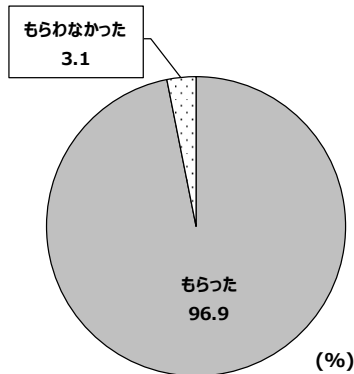
	(%)
① 毎月貯金額を決め、それ以外を使っている	9.5
② 特に計画はもたずに必要な時に使い、余れば貯金する	51.4
③ ほぼ全額を貯金している（金融機関または保護者に預けている）	2.2
④ 計画的に使い、毎月ほぼ使い切る（貯金はしない）	10.2
⑤ 特に計画はもたずに必要な時に使い、毎月ほぼ使い切る（貯金はしない）	14.5
⑥ 特に計画はもたずに必要な時に使うが、不足することがある	12.2
(貯金している・計) ①+②+③	63.1
(特に計画はもたない・計) ②+⑤+⑥	78.0

※ サンプル数=2,684

(図表6) 「おこづかい」のもらい方別スコア (%)

	スコア
もらっている（定期的に定額を）	61.4
もらっている（必要な時に）	59.6
もらっている（お手伝いなどをする）	54.7
もらっていない	56.4

(図表7) お年玉の有無・金額・使い方 (Q2\_1、3、4)



【お年玉額】

平均値 (円)	中央値 (円)	最頻値 (円)
32,853	30,000	30,000

(「お年玉をもらった人」※の使い方)

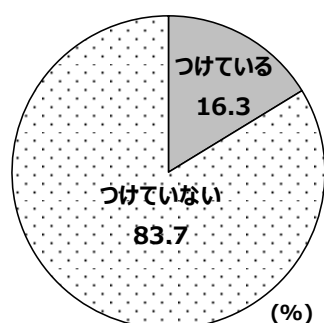
	(%)
① 毎年貯金額を決め、それ以外を使っている	19.3
② 特に計画はもたずに必要な時に使い、余れば貯金する	32.2
③ ほぼ全額を金融機関に貯金している	16.0
④ ほぼ全額を保護者に預けている	13.4
⑤ 計画的に使い、毎年ほぼ使い切る（貯金はしない）	7.3
⑥ 特に計画はもたずに必要な時に使い、毎年ほぼ使い切る（貯金はしない）	11.8
(貯金している・計) ①+②+③+④	81.0
(特に計画はもたない・計) ②+⑥	44.0

※ サンプル=2,906

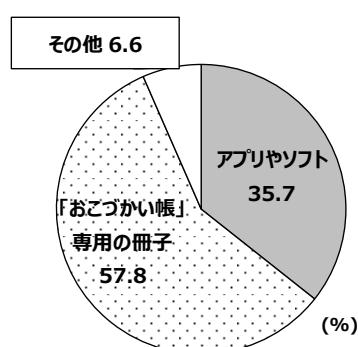
## (お金の管理)

- ・「おこづかい帳」(お金に関する記録)をつけているのは 16.3%であり、そのうち専用の冊子を利用しているのが 57.8%、アプリやソフトを利用しているのが 35.7%であった。(図表 8、9)
- ・おこづかい帳をつけている人は、ニーズとウォンツの区別に関する設問(「ものを買う前に、必要なものか、欲しいものかについて考えて買うようにしている」)の回答が全体(74.8%)に比べて 82.6%と高い。また、「買い物をする時、情報を集めて、複数のお店や商品と比較してから買うようにしている」の回答が全体(58.3%)に比べて 68.6%と高い。(図表 10)

(図表8) 「おこづかい帳」をつけているか (Q3\_1)



(図表 9) 「おこづかい帳」を何でつけているか (Q3\_2)



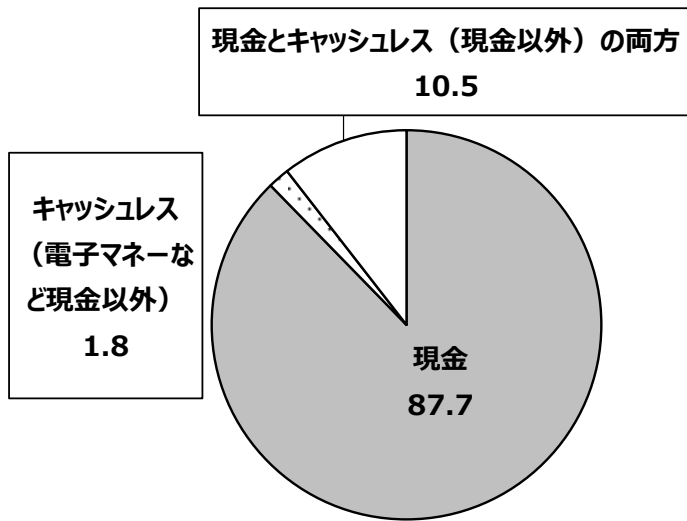
(図表10) 「おこづかい帳」をつけている人の買い物をする時の行動 (Q3\_1⇒Q9\_1、2)

		Q9_1 ものをかう前に、必要なものか、欲しいものかについて考えて買うようにしている			Q9_2 買い物をする時、情報を集めて、複数のお店や商品と比較してから買うようにしている		
		あてはまる	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	あてはまらない	どちらともいえない
全体		74.8	8.6	16.6	58.3	21.2	20.4
Q3_1. 「おこづかい帳」をつけているか	つけている	82.6	6.1	11.3	68.6	16.4	15.0
	つけていない	73.3	9.1	17.6	56.3	22.2	21.5

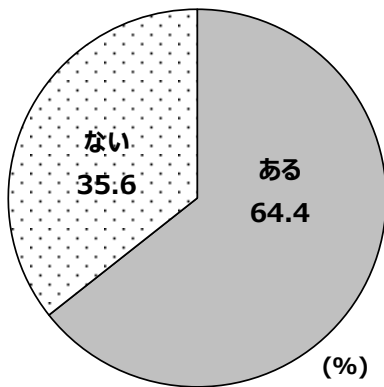
## (キャッシュレス)

- ・「おこづかい」をもらっている人のうち、キャッシュレスでもらっている人は 12.3% (キャッシュレスと現金両方 10.5%、キャッシュレスのみ 1.8%)。(図表 11)
- ・キャッシュレス決済の利用経験のある人の割合は 64.4%。(図表 12) また、キャッシュレス決済の利用経験のある人のうち、中学校の授業で「キャッシュレスの仕組みと利用方法」について「学んだ」と回答したのは 35.8%に止まっており、学校でキャッシュレスを学ばずに利用している人が多い。(図表 13)
- ・日常生活において、現金よりもキャッシュレス決済を多く使うとの回答は 27.2%。(図表 14) 利用したことがあるキャッシュレス決済は、「スマホ決済」が 7 割と最も多く、「交通系 IC カード」が 6 割となった。

(図表 11) 「おこづかい」を何でもらっているか  
(Q1\_2)



(図表 12) キャッシュレス決済の利用経験  
(Q6\_1)



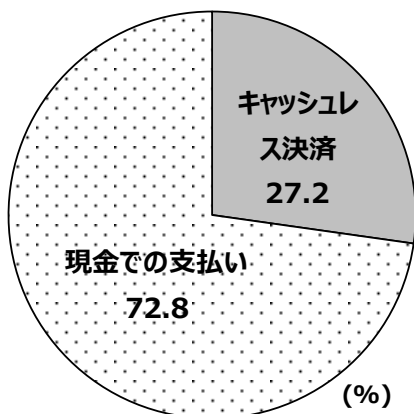
(図表 13) キャッシュレス決済の利用経験のある人のうち、中学校の授業で「キャッシュレス決済の仕組みと利用方法」を学んだと回答した割合

(Q6\_1⇒Q20\_2)

(%, ( ) 内はサンプル数)

学んだことがある (692)	35.8
学んだことがない (1,239)	64.2

(図表 14) 日常生活の支払手段としてキャッシュレス決済と現金とでは、どちらを使うことが多いか (Q6\_4)



## (お金を巡る態度)

・「お金はコツコツ働いて貯めるものである」との設問に「そう思う」と8割が回答しており、勤労や貯蓄への意識が高いことがうかがわれる。(図表15)

——「子どものくらしとお金に関する調査」(対象：中学1～3年生)の過去の調査における同じ設問への回答結果と比較してみても、こうした傾向に変化はみられない。(図表15)

なお、調査対象の違いはあるが、「お金より大切なものがある」、「ギャンブルでお金をかせぐのは良くないことである」、「法律違反でなければ、どんなことをしてお金をかせいでも良い」との設問に「そう思う」と回答した割合は、「お金よりも大切なものがある」が下がった一方、それ以外は上がっている。(図表15)

(図表15) お金を巡る態度の過去の子ども調査<sup>※</sup>との比較

設問番号	設問内容	そう思う	(%)		
			2015年度調査	2010年度調査	2005年度調査
Q13_1	お金より大切なものがある	72.7	79.3	80.0	79.1
Q13_2	お金はコツコツ働いて貯めるものである	80.3	79.9	82.2	74.9
Q13_3	法律違反でなければ、どんなことをしてお金をかせいでも良い	18.7	10.5	14.0	16.6
Q13_4	ギャンブルでお金をかせぐのは良くないことである	48.3	46.0	46.1	39.5

※ 2015年度、2010年度、2005年度の子ども調査のお金を巡る態度に関する設問のうち、今回調査と共通の設問を取り上げ(調査対象は中学1～3年生)。

## (買い物、トラブル)

・「ものを買う前に、必要なものか、欲しいものか考える」との回答が74.8%と、7割以上の人が必要とウォンツを考えながら買い物をしている。(図表16)

・「オンラインゲームの課金トラブルや悪質商法のトラブルに巻き込まれないように、日頃から気を付けている」人が77.4%、「スマートフォンやアプリのパスワードを友人に知らせていない」が87.1%と、トラブル回避に対する意識は高い。(図表17)

(図表16) 買い物する時の行動(Q9\_1)

設問番号	設問内容	(%)		
		あてはまる	あてはまらない	どちらともいえない
Q9_1	ものを買う前に、必要なものか、欲しいものかについて考えて買うようにしている	74.8	8.6	16.6



(図表 17) トラブルや情報セキュリティに関する設問への回答 (Q9\_7、9)

設問 番号	設問内容	(%)		
		あてはまる	あてはまらない	どちらともいえない
Q9_7	パソコンやスマートフォンでのオンラインゲームの課金トラブルや悪質商法のトラブルに巻き込まれないように、日頃から気を付けている	77.4	7.0	15.6
Q9_9	自分のスマートフォンやアプリのパスワードを友人が知っている	11.4	87.1	1.5 <sup>※</sup>

※「スマートフォン等の機器を所有していない」人の割合。

### (保護者との会話)

- 保護者との仕事や家計などに関する会話の頻度別にスコアをみると、「週に1回以上話をする（含むほぼ毎日）」が62.8%と、「ほとんどしない」の56.7%、「一度もしたことがない」の44.9%よりも高い。（図表 18）

(図表18) 保護者との会話頻度別のスコア (Q14)

	スコア					
	ほぼ毎日話をする	週に1回以上話をする	月に1回以上話をする	ほとんど話をしない	一度もしたことがない	週に1回以上話をする（含むほぼ毎日）
会話4項目計 <sup>※</sup>	62.7	62.8	59.9	56.7	44.9	62.8

※ ①自分のつきたい仕事や保護者の仕事のこと、②将来の夢や進路のこと、③家計や生活設計のこと、④社会・政治・経済・金融・国際情勢等のことの4項目。

## (金融経済の基礎、資産形成)

- 金融・経済の基礎、資産形成に関するスコアをみると、複利、リスクとリターンの基本、物価への理解が十分ではないことがわかる。
- 単利と複利の設問では「単利の理解」が63.0%と全体（60.3%）を上回った一方、「複利の理解」は36.4%と、全体を大きく下回っており、両者の理解には大きな差がある（図表 19）
- 金融商品のリスクとリターンに関する設問（「リスクが低くリターンが高い金融商品はない」が正しいか間違っているか）のスコアは47.4%。（図表 20）
- インフレーションに関する設問のスコアは6割弱。また、景気と物価や失業者の関係について、好景気・不景気時の失業者の増減を問う設問ではスコアは8割を超えたが、物価の上昇・下落を問う設問では5割強となっており、景気の変動に対し物価が上下する実感を持っていない可能性がある。（図表 20）

(図表 19) 「単利・複利」に関するスコア

設問番号	設問内容	スコア (%)
Q18_1	100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れました。それ以外、この口座への入金や出金がなかった場合、1年後、残高はいくらになっているか（単利計算に関する設問）	63.0
Q18_2	Q18_1の口座では、5年後には残高はいくらになっているか（複利計算に関する設問）	36.4

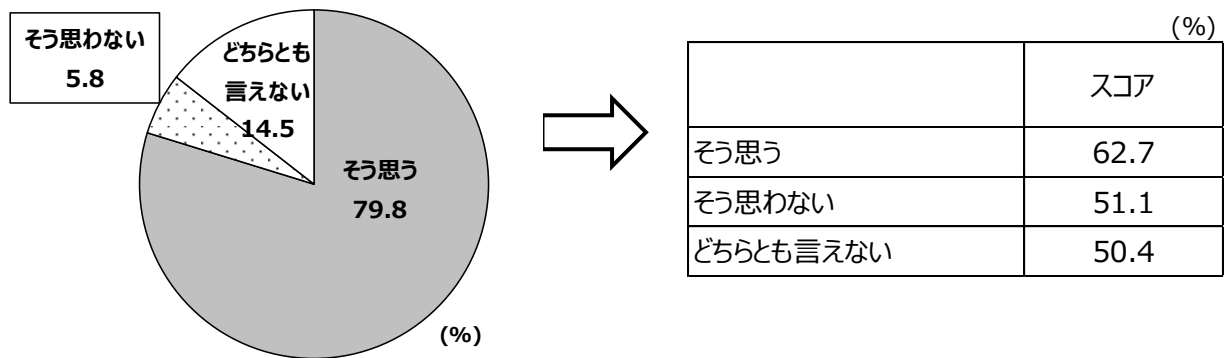
(図表20) 金融経済の基礎、資産形成に関するスコア

設問番号	設問内容	スコア (%)
Q15	好景気と不景気での物の値段・生産量や失業者の人数の変化	
1	好景気時に物価は上がるか、下がるか	59.4
2	不景気時に物価は上がるか、下がるか	56.6
3	好景気時に失業者は増加するか、減少するか	83.9
4	不景気時に失業者は増加するか、減少するか	85.0
Q17_1	リスクが低くリターンが高い金融商品はない	47.4
Q17_10	インフレーションとは、物価が上がり、例えば同じ100円で買えていたものが減る（または買えなくなる）ことである	58.2

### (学校での金融教育)

- ・ 学校の授業でお金（家計・くらし）について教えてほしいとの回答は、79.8%となった。（図表21）  
—— 「教えてほしい」と回答した人のスコアは62.7%と、全体（60.3%）を上回った。

(図表21) 学校の授業でお金のことについて教えてほしいか (Q21\_1) と回答別スコア



### 3. 調査結果

#### (1) 15歳の金融リテラシーの現状

- ・ スコアを金融リテラシー・マップの分類別で見ると、「保険」が81.1%、「金融・経済の基礎」が68.8%と高かった一方で、「生活設計」が 35.7%、「ローン・クレジット」が 42.2%、「資産形成」が 46.9%と、50%を下回った。(図表 22)

(図表 22) 金融リテラシー・マップの分類別スコア※

分類	NO	設問番号	設問内容	スコア (%)	
				設問	分類
家計管理	1	Q6_6_1	「クレジットカード」の主な決済方法は、どのタイプであると思うか	69.5	65.6
	2	Q6_6_2	「プリペイド式の電子マネーカード」の主な決済方法は、どのタイプであると思うか	58.5	
	3	Q6_6_3	「デビットカード」の主な決済方法は、どのタイプであると思うか	59.7	
	4	Q9_1	ものを買う前に、必要なものか、欲しいものかについて考えて買うようにしている	74.8	
生活設計	5	Q9_3	環境に配慮した商品を買うようにしている	14.1	35.7
	6	Q17_11	人生において支出額の大きい費用を計画的に準備することが重要で、一般的に人生の三大費用と言われるのは、「住宅費」、「子どもの教育費」、「医療費」である	16.6	
	7	Q17_16	会社を作って起業するのも働き方の選択肢の一つである。株式会社は資本金 1 円から設立することができる	40.8	
	8	Q17_17	病気などで治療が必要となった時、健康保険証があれば医療費の一部を負担するだけで済むのは、社会保険制度があるからである	71.3	
金融取引の基本	9	Q9_4	買い物をした時に、レシートやおつりの金額を確認している	54.7	62.0
	10	Q9_5	購入した商品に欠陥がないか確認し、欠陥があれば返品・交換している	48.7	
	11	Q9_6	保証書や取扱説明書を保管している	47.7	
	12	Q9_7	パソコンやスマートフォンでのオンラインゲームの課金トラブルや悪質商法のトラブルに巻き込まれないように、日頃から気を付けている	77.4	
	13	Q9_9	自分のスマートフォンやアプリのパスワードを友人が知っている	88.4	
	14	Q17_12	18歳になった高校生が保護者に内緒で購入した商品の契約は取り消せる	38.6	
	15	Q17_13	電話で注文しただけでは口約束なので、売買契約は成立していない	48.3	
	16	Q17_14	「クーリング・オフ」という消費者を守る仕組みがあるが、すべての契約に適用されるわけではない	59.6	
金融・経済の基礎 (次頁に続く)	17	Q19_1	2022年4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたことを知っているか	94.8	68.8
	18	Q15_1	好景気と不景気での物の値段・生産量や失業者の人数の変化 好景気時に物価は上がるか、下がるか。	59.4	
	19	Q15_2	好景気と不景気での物の値段・生産量や失業者の人数の変化 不景気時に物価は上がるか、下がるか。	56.6	
	20	Q15_3	好景気と不景気での物の値段・生産量や失業者の人数の変化 好景気時に失業者は増加するか、減少するか。	83.9	
	21	Q15_4	好景気と不景気での物の値段・生産量や失業者の人数の変化 不景気時に失業者は増加するか、減少するか。	85.0	
	22	Q17_3	日本のお札は、日本銀行だけが発行することができる	84.0	
	23	Q17_4	「1ドル = 120円」から「1ドル = 140円」になったら、「円高」である	65.5	
	24	Q17_5	円安は、一般的に、輸出が中心の日本の企業には有利だが、輸入が中心の企業には不利である	53.6	

※ 地域別のスコアは、後掲（参考 2）を参照。

(図表 22) 金融リテラシー・マップの分類別スコア (続き)

(%)

分類	NO	設問番号	設問内容	スコア	
				設問	分類
金融・経済の基礎	25	Q17_6	生活道路の補修や安全を守る警察・消防などの公共サービスは私たちが納めた税金をもとに政府が提供している	73.8	68.8
	26	Q17_7	日本銀行は、物価の安定を実現するため、市場に出回る通貨の量や金利を調節している。これを金融政策という	67.5	
	27	Q17_8	国民が税金を納めることは、憲法で「国民の義務」と定められている	86.4	
	28	Q17_9	物やサービスを購入するときは、消費税を支払う	89.5	
	29	Q17_10	インフレーションとは、物価が上がり、例えば同じ100円で買っていたものが減る（または買えなくなる）ことである	58.2	
	30	Q18_1	100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れました。それ以外、この口座への入金や出金がなかった場合、1年後、残高はいくらになっているか（利息にかかる税金は考慮しないで教えてください）	63.0	
	31	Q18_2	Q18_1の口座では、5年後には残高はいくらになっているか（利息にかかる税金は考慮しないで教えてください）	36.4	
保険	32	Q9_8	自転車での事故による損害賠償に備えて、自転車保険に加入している	81.7	81.1
	33	Q17_18	生命保険や損害保険は万一の備えとして用いられる	80.5	
ローン・クレジット	34	Q7_1	クレジットカードを使って商品の購入やサービスの利用をした場合、クレジットカード会社が利用した金額を「立て替え払い」している	54.5	42.2
	35	Q7_2	クレジットカードを利用する場合、通常一括払いなら手数料はかからないが、3回以上の分割払いにした場合、手数料がかかる	35.7	
	36	Q7_3	リボ払いは予め設定した一定の金額を毎月支払う方式のため、利用金額が大きくなると返済期間が長くなり、最終的に多額の手数料がかかることがある	36.3	
資産形成	37	Q16	金融商品のリスクとリターン（収益）の関係図について、①～④にあてはまる正しい組み合わせ	52.5	46.9
	38	Q17_1	リスクが低くリターンが高い金融商品はない	47.4	
	39	Q17_2	投資をする場合、1社の株だけを買うことは、通常、株式投資信託（何社かの株式に分けて投資する金融商品）を買うよりも安全な投資である	40.8	
外部の知見活用	40	Q9_2	買い物をする時、情報を集めて、複数のお店や商品と比較してから買うようにしている	58.3	58.7
	41	Q17_15	通信販売で気になっていた定期購入の商品が初回お試し価格で安くなっていたので、2回目以降の条件は確認せずに急いで購入した	64.4	
	42	Q17_19	消費者トラブルの被害に遭った時の電話相談窓口として、消費者ホットライン（188番）がある	53.4	

(注 1) Q9\_9 のスコアは、「スマートフォン等の機器を所有していない（サンプル数：46）を除いて算出。

(注 2) Q18\_2 は複利計算に関する設問。

(注 3) Q9\_8 のスコアは、「自転車に乗らない（サンプル数：547）」を除いて算出。

- ・ 保護者の学歴別スコアは、全体（60.3%）に対し、「大学院卒業」が 69.4%、「大学卒業」が 64.1%と高い一方、「高等学校卒業」は 54.7%と低い。（図表 23）。
- ・ 世帯年収別スコアは、「1,500 万円以上 2,000 万円未満」が 70.2%と最も高く、「200 万円以上 400 万円未満」が 55.3%と最も低い。（図表 24）。
- ・ 家庭状況別スコアは、全体（60.3%）に対し、「片働き」が 61.9%、「共働き」が 60.6%である。（図表 25）

（図表23） 保護者の学歴別スコア

(%、( ) はサンプル数)

	スコア
中学校卒業 (16)	43.8
高等学校卒業 (540)	54.7
専門学校卒業 (365)	54.9
短大・高専卒業 (304)	58.3
大学卒業 (1,453)	64.1
大学院卒業 (170)	69.4
わからない (152)	52.1

（図表 24） 世帯年収別スコア

(%、( ) はサンプル数)

	スコア
200万円未満 (72)	58.3
200万円以上400万円未満 (223)	55.3
400万円以上600万円未満 (371)	60.0
600万円以上800万円未満 (436)	62.3
800万円以上1,000万円未満 (353)	64.0
1,000万円以上1,200万円未満 (174)	68.0
1,200万円以上1,500万円未満 (138)	67.9
1,500万円以上2,000万円未満 (55)	70.2
2,000万円以上 (30)	70.0
わからない (938)	56.7
答えたくない (210)	56.9

（図表 25） 家庭状況別スコア

(%、( ) はサンプル数)

	スコア
共働き (1,959)	60.6
片働き (622)	61.9
母子・父子家庭 (185)	55.5
その他 (234)	57.1

## (2) 15歳のお金に関する行動・考え方

### ①おこづかい・お年玉、貯金、お金の管理

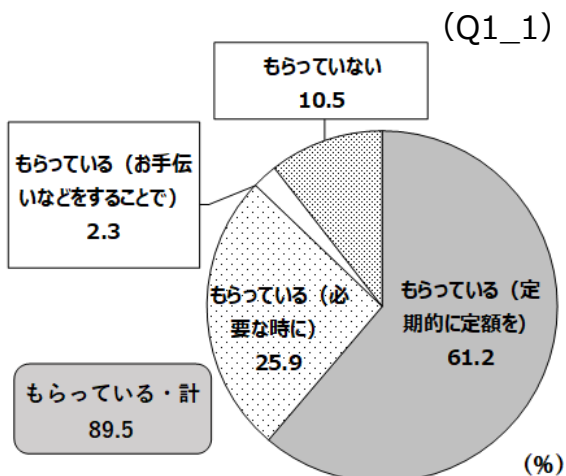
#### (おこづかい)

- ・ おこづかいのもらい方をみると、「定期的に定額を」が61.2%と最も多く、「必要な時に」が25.9%、「お手伝いなどをすることで」が2.3%と続く。(図表26)
- ・ おこづかいの平均値(4,787円/月)について、「子ども調査」(2015年度、対象：高校1~3年生)では平均値が5,114円/月であった。回答者の年齢構成が異なることや中央値・最頻値が不変であることなどを踏まえると、高校1年生のおこづかいの金額に大きな変化はないとみられる。(図表27)

#### (お年玉)

- ・ お年玉の額について、今回調査では、10,000円以上が9割強(うち10,000円~50,000円が7割強)となっているのに対し、「子ども調査」(2015年度、対象：中学1~3年生)でも、10,000円以上をもらっている人は約9割(うち10,000円~50,000円が約7割、除く無回答)で、お年玉の金額にも大きな変化はないとみられる。(図表28)

(図表26) 「おこづかい」をもらっているか



(図表27) 1か月のおこづかい額 (Q1\_3)

今回調査2023年

平均値 (円)	中央値 (円)	最頻値 (円)
4,787	5,000	5,000

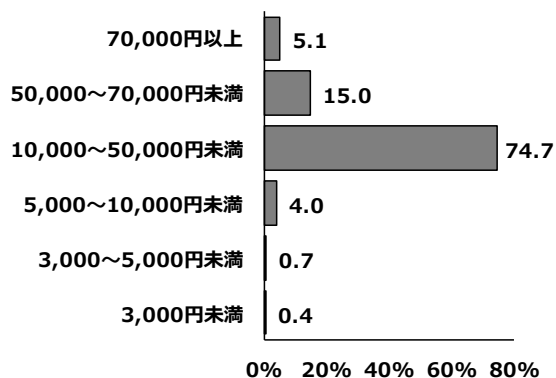
子ども調査 2015年度\*

平均値 (円)	中央値 (円)	最頻値 (円)
5,114	5,000	5,000

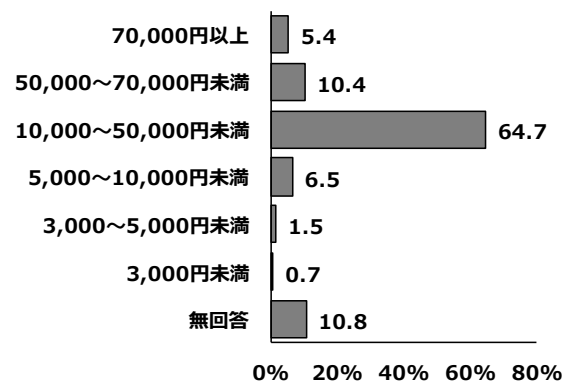
※ 高校1~3年生の回答。

(図表28) もらったお年玉の金額 (Q2\_3)

今回調査2023年



子ども調査 2015年度\*



平均値 (円)	中央値 (円)	最頻値 (円)
32,853	30,000	30,000

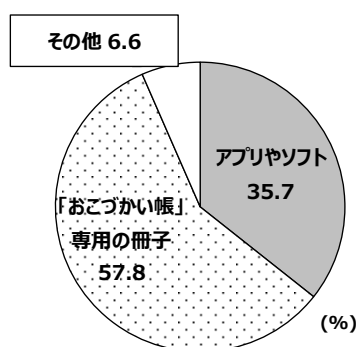
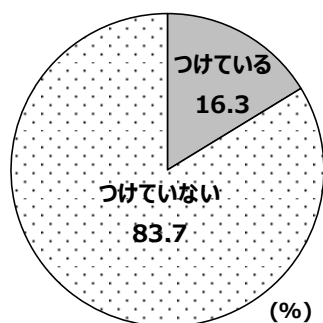
※ 中学1~3年生の回答。調査時点で最後にもらったお年玉は中学生だったと思われるため。

(お金の管理)

- ・「おこづかい帳」(お金に関する記録)をつけているのは16.3%であり、そのうち専用の冊子を利用しているのが57.8%、アプリやソフトを利用しているのが35.7%であった。(図表29、30)
- ・「おこづかい帳」をつけている人は、ニーズとウォンツの区別に関する設問(「ものを買う前に、必要なものか、欲しいものかについて考えて買うようにしている」)の回答が全体(74.8%)に比べて82.6%と高い。また、「買い物をする時、情報を集めて、複数のお店や商品と比較してから買うようにしている」の回答が全体(58.3%)に比べて68.6%と高い。(図表31)
- ・「銀行や郵便局などに、自分の口座がある」は約8割で、そのうち「残高を自分で確認している」が4割弱、「インターネットバンキングを利用している」が約1割であった。(図表32、33)
- ・「子ども調査」(2015年度、対象：中学1~3年生)で「おこづかい帳をつけている」は2割、「自分の口座がある」も7割強と、ともに大きな変化はみられない。(図表34)

(図表29) 「おこづかい帳」をつけているか (Q3\_1)

(図表30) 「おこづかい帳」を何でつけているか (Q3\_2)



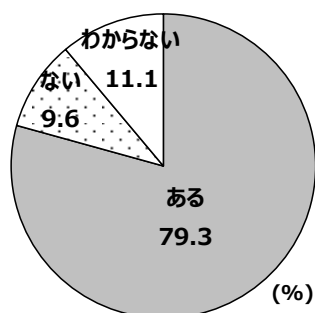
(図表31) 「おこづかい帳」をつけている人の買い物をする時の行動 (Q3\_1⇒Q9\_1、2)

(%)

		Q9_1 ものをかう前に、必要なものか、欲しいものかについて考えて買うようにしている			Q9_2 買い物をする時、情報を集めて、複数のお店や商品と比較してから買うようにしている		
		あてはまる	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	あてはまらない	どちらともいえない
全体		74.8	8.6	16.6	58.3	21.2	20.4
Q3_1. 「おこづかい帳」をつけているか	つけている	82.6	6.1	11.3	68.6	16.4	15.0
	つけていない	73.3	9.1	17.6	56.3	22.2	21.5

(図表32) 銀行や郵便局などに、自分の口座があるか (Q4\_1)

(図表33) 残高確認、インターネットバンキング利用 (Q4\_2)



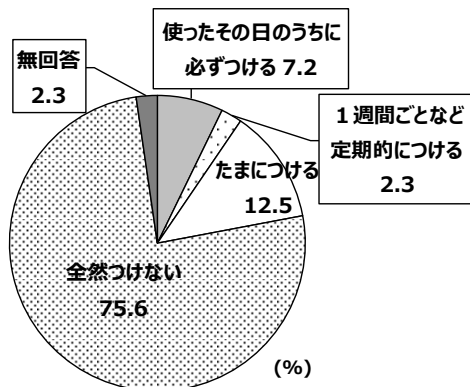
(%)

	はい	いいえ
Q4_2_1 【あなたの口座(自分の預金や貯金)】の残高を自分で確認しているか	38.3	61.7
Q4_2_2 【あなたの口座】インターネットバンキングを利用しているか	11.8	88.2

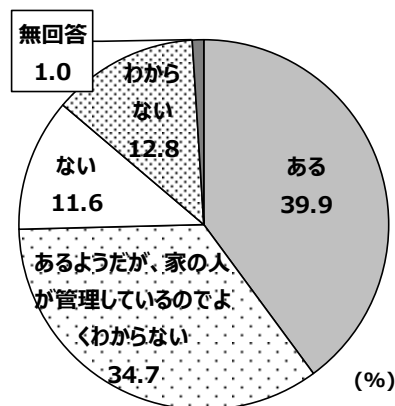


(図表 34) 子ども調査 (2015 年度) のおこづかい帳および自分の口座の有無※

(「おこづかい帳」をつけているか)



(銀行や郵便局などに、自分の口座があるか)

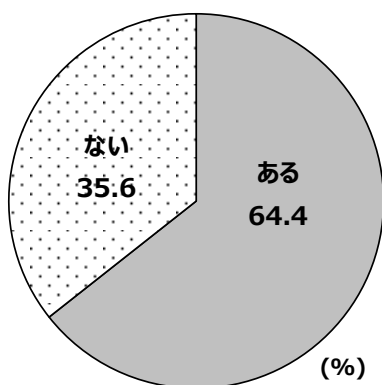


※中学1～3年生の回答

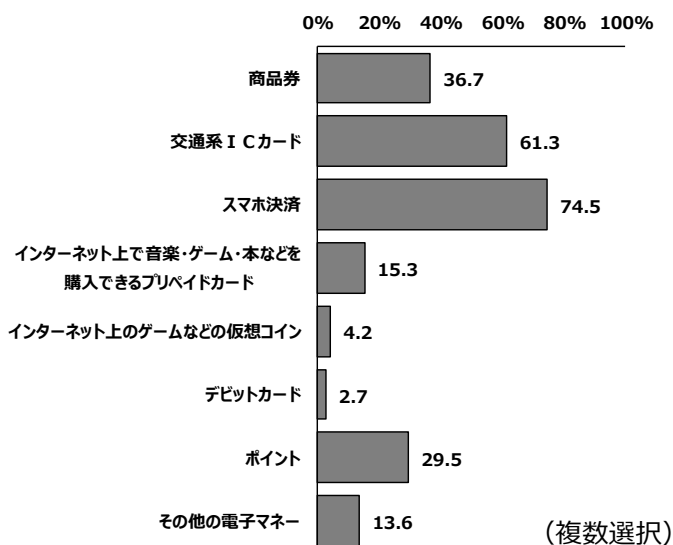
## ②キャッシュレス

- ・ キャッシュレス決済の利用経験について「ある」と回答した人は64.4%。(図表 35) そのうち、利用したことがあるキャッシュレス決済は、「スマホ決済」が7割強と最も多く、「交通系 I Cカード」が6割となった。(図表 36)
- ・ キャッシュレス決済を利用したことがある人のうち、日常生活において、現金よりもキャッシュレス決済を多く使うとの回答は27.2%、現金よりもキャッシュレス決済の時の方がお金を使い過ぎることがあるかとの設問に対し、「ある」、「ない」、「どちらともいえない」の回答がそれぞれおよそ1/3であった。(図表 37、38) キャッシュレス決済の残高や取引履歴の確認は、「使ったその日」が40.0%、次いで「たまに確認」が35.2%となった。(図表 39)

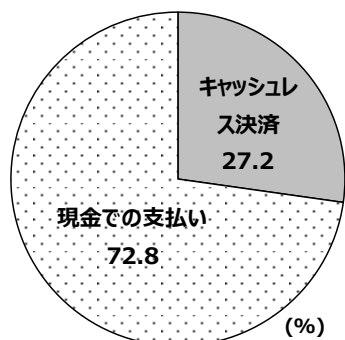
(図表 35) キャッシュレス決済の利用経験 (Q6\_1)



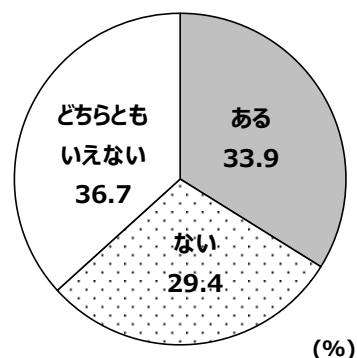
(図表 36) 利用したことがあるキャッシュレス決済 (Q6\_2)



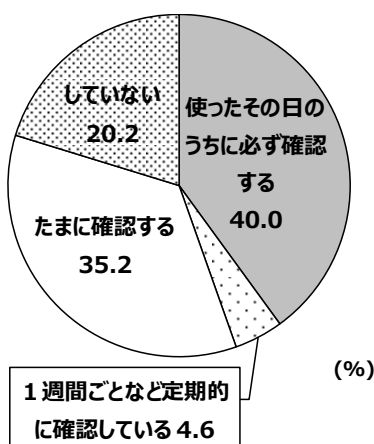
(図表37) 日常生活の支払手段として  
キャッシュレス決済と現金とは、  
どちらを使うことが多いか (Q6\_4)



(図表 38) 現金よりもキャッシュレス決済の  
時の方がお金を使い過ぎることが  
あるか (Q6\_5)



(図表39) キャッシュレス決済の残高、  
取引履歴の確認 (Q6\_3)



### ③買い物、自分の持ち物の売却、トラブル

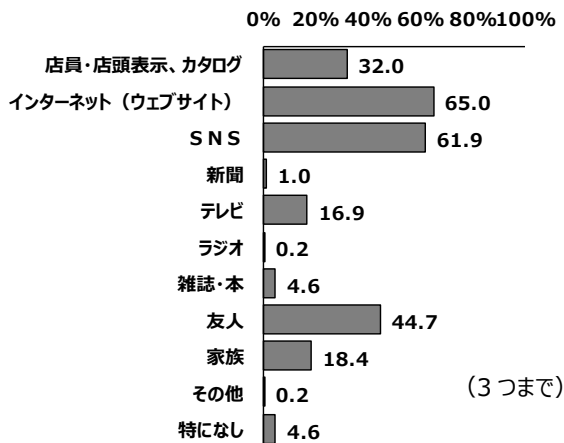
#### (買い物)

- ・「ものを買う前に、必要なものか、欲しいものか考える」が 74.8%、「買い物をする時、情報を集めて、複数のお店や商品と比較してから買うようにしている」が 58.3%と、7 割以上の方がニーズとウォンツを考えながら買い物をし、6 割弱が店や商品の選び方を工夫して買い物をしている。(図表 40)
- ・「買い物をする際の情報源」として、「インターネット (ウェブサイト) 」(65.0%)、「SNS」(61.9%) が 50%を超えた。(図表 41)

(図表 40) 買い物をする時の行動 (Q9 1~2)

設問 番号	設問内容	(%)		
		あてはまる	あてはまらない	どちらともいえない
Q9_1	ものを買う前に、必要なものか、欲しいものかについて考えて買うようにしている	74.8	8.6	16.6
Q9_2	買い物をする時、情報を集めて、複数のお店や商品と比較してから買うようにしている	58.3	21.2	20.4

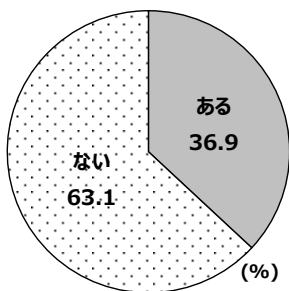
(図表 41) 買い物をする時の情報の収集先 (Q5)



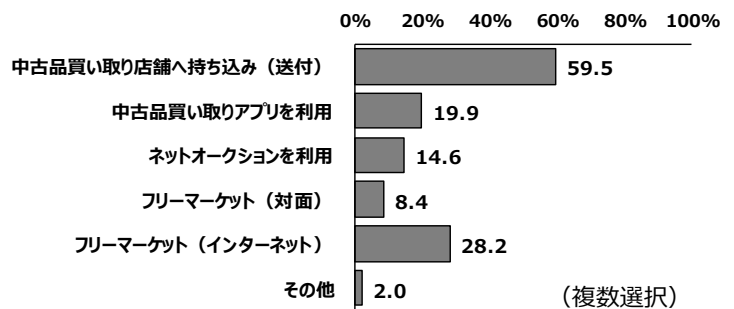
(自分の持ち物の売却)

- ・「自分の持ち物を売ってお金を得た経験がある」は 36.9%。売却方法は、「中古品買い取り店舗へ持ち込み (送付)」が 59.5%と最も高く、次いで「フリーマーケット (インターネット)」が 28.2%と続く。売却したことのある持ち物は、「本・マンガ・参考書など」が 63.9%、「プラモデル・ゲームカセットなどの玩具類」が 36.2%となっている。(図表 42、43、44)
- ・「自分の持ち物を売ってお金を得た経験がある」人は、買い物をする時、情報を集めて店や商品を比較して工夫した買い物をする傾向が、「経験のない人」に比べ強い (経験あり：65.3%、経験なし：54.2%)。(図表 45)

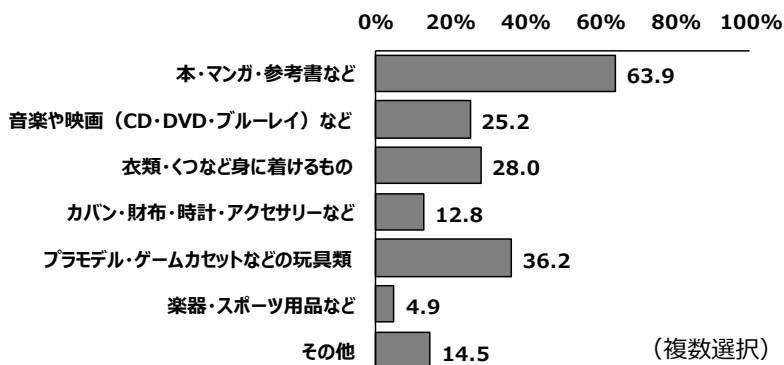
(図表 42) 自分の持ち物を売って  
お金を得た経験 (Q8\_1)



(図表 43) 持ち物の売却方法 (Q8\_2)



(図表 44) 売却したことのある持ち物 (Q8\_3)



(図表45) 自分の持ち物を売ってお金を得た経験と買い物をする時の傾向 (Q8\_1⇒Q9\_2)

		Q9_2 買い物をする時、情報を集めて、複数のお店や商品と比較してから買うようにしている (%)		
		あてはまる	あてはまらない	どちらともいえない
Q8_1 自分の持ち物を売ってお金を得た経験	ある	65.3	17.4	17.2
	ない	54.2	23.5	22.3

## (トラブル・情報セキュリティ)

- ・トラブルに関連する設問では、「オンラインゲームの課金トラブルや悪質商法のトラブルに巻き込まれないように、日頃から気を付けている」が 77.4%、情報セキュリティに関する設問では、「自分のスマートフォンやアプリのパスワードを友人に知らせていない」が 87.1%と、トラブル回避に対する意識は高い。

## (図表 46)

—— 「オンラインゲームの課金トラブルや悪質商法のトラブルに巻き込まれないように、日頃から気を付けている」で「あてはまる」と回答した人は、「あてはまらない」と回答した人に比べて、以下の特徴がみられる。(図表 47)

- ①「新聞・インターネット等でニュースを見聞きする割合」が多い。
- ②「相談窓口として消費者ホットライン（188）がある」で正答した割合が 5 割超。
- ③中学校の授業で「お金のトラブルへの回避方法・対処方法」について「学んだ」と回答した割合が高い。
- ④「お金のトラブルの回避方法や対処方法」について、「教えてほしい」の割合が高い。

(図表 46) トラブルや情報セキュリティに関する設問 (Q9\_7、9)

設問番号	設問内容	あてはまる	あてはまらない	どちらともいえない (%)
Q9_7	パソコンやスマートフォンでのオンラインゲームの課金トラブルや悪質商法のトラブルに巻き込まれないように、日頃から気を付けている	77.4	7.0	15.6
Q9_9	自分のスマートフォンやアプリのパスワードを友人が知っている	11.4	87.1	1.5*

\*「スマートフォン等の機器を所有していない」人の割合。

(図表47) 日頃からトラブルに気を付けている人の特徴

(Q9\_7⇒Q11\_1、Q17\_19、Q20\_2、Q21\_2) (%)

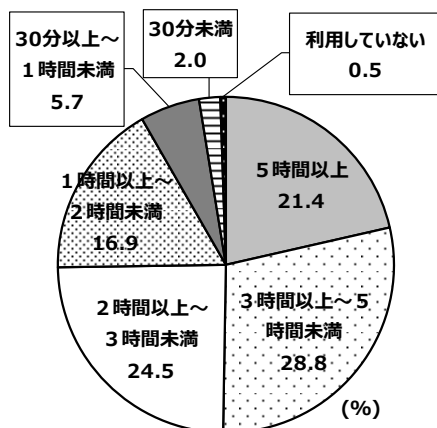
		Q9_7 パソコンやスマートフォンでのオンラインゲームの課金トラブルや悪質商法のトラブルに巻き込まれないように、日頃から気を付けている	
		あてはまる	あてはまらない
Q11_1 新聞・テレビ・ニュースサイトなどで、社会・政治・経済・金融・国際に関するニュースを見聞きするか	みたり聞いたりする	57.0	40.8
	みたり聞いたりしない	43.0	59.2
Q17_19 消費者トラブルの被害に遭った時の電話相談窓口として、消費者ホットライン（188番）がある	正しい（正答）	57.3	43.1
	誤り	3.8	10.9
	わからない	38.9	46.0
Q20_2 中学校の社会科（公的分野）や技術・家庭科（家庭分野）、総合的な学習の時間、特別活動などの授業で学んだお金（家計・くらし）のこと	お金のトラブルの回避方法・対処方法	42.3	26.8
Q21_2. 学校の授業で教えてほしいと思うお金のこと	お金のトラブルの回避方法・対処方法	61.5	44.6

④インターネット、ニュース

(インターネット)

- ・ 「1日当たりのインターネット平均利用時間（学校の授業での利用を除く）」をみると、「3時間以上～5時間未満」が28.8%が最も多く、これに「2時間以上～3時間未満」が24.5%、「5時間以上」が21.4%と続く。（図表48）
- ・ 利用時間別のスコアをみると、「30分以上～1時間未満」が65.4%と最も高く、「1時間以上～2時間未満」が63.6%、「2時間以上～3時間未満」が61.9%と続く。（図表49）
- 「子ども調査」（2015年度：対象：中学1～3年生）における利用時間が「3時間以上」の割合は、平日で12.2%、週末で24.7%であったのに対し、今回の調査では50.2%（「5時間以上」と「3時間以上5時間未満」の合計）と大きく上昇している。（図表50）

(図表48) 1日当たりのインターネット平均利用時間 (Q10\_1)



(図表49) 1日当たりの平均利用時間別スコア

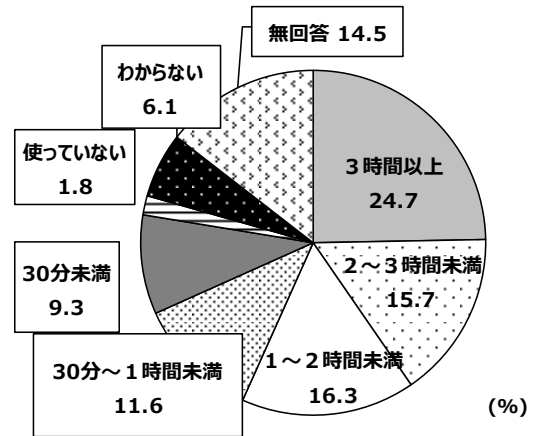
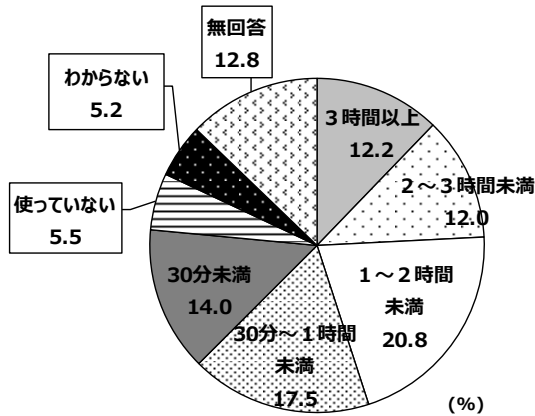
(%、( ) はサンプル数)

利用時間	スコア
5時間以上 (643)	56.6
3時間以上～5時間未満 (865)	59.0
2時間以上～3時間未満 (735)	61.9
1時間以上～2時間未満 (508)	63.6
30分以上～1時間未満 (172)	65.4
30分未満 (61)	61.5
利用していない (16)	38.6

(図表 50) 子ども調査 (2015 年度) でのインターネット 1 日当たりの平均利用時間※

インターネットの利用時間 平日

インターネットの利用時間 週末



※中学 1~3 年生の回答。

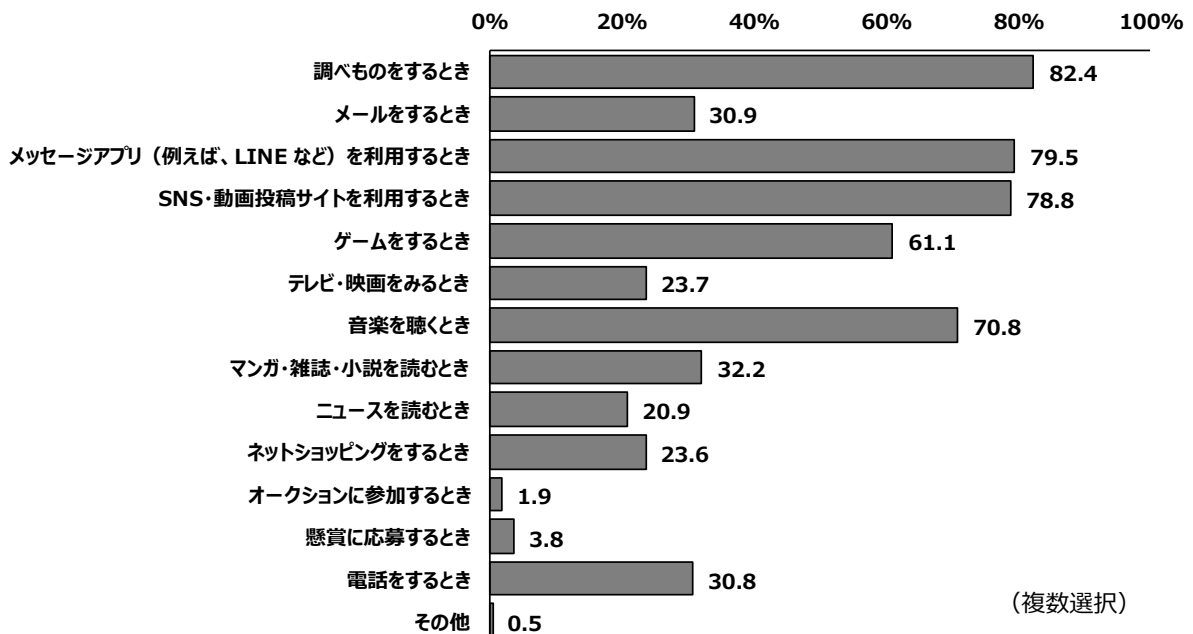
- ・「インターネットの利用目的」は、「調べものをするとき」が 82.4%と最も高く、次いで、「メッセージアプリ (LINE など) を利用するとき」が 79.5%、「SNS・動画投稿サイトを利用するとき」が 78.8%と続く。(図表 51)

(ニュース)

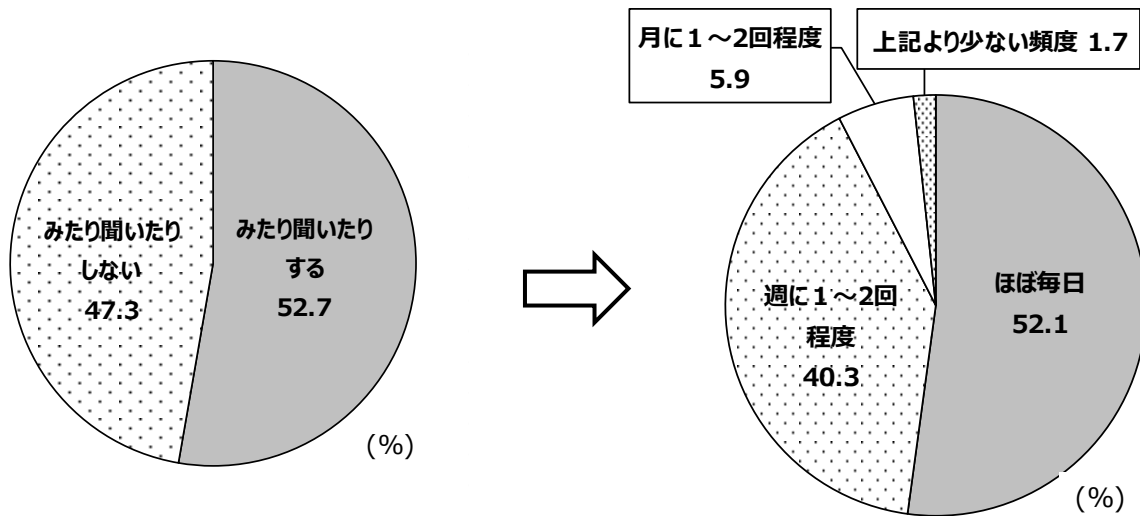
- ・「新聞・テレビ・ニュースサイトなどで、社会・政治・経済・金融・国際に関するニュースをみたり聞いたりする」が 52.7%、その頻度では「ほぼ毎日」が 52.1%となった。(図表 52)

—— 「ほぼ毎日」ニュースをみたり聞いたりすると回答した人のスコアは、65.9%と全体 (60.3%) を上回った。(図表 53)

(図表 51) インターネットの利用目的 (Q10\_2)



(図表52) 新聞・テレビ・ニュースサイトなどで、社会・政治・経済・金融・国際に関するニュースを「みたり聞いたりするか」と「その頻度」(Q11\_1、2)



(図表53) ニュースをみたり聞いたりする頻度別スコア

	スコア (%)
ほぼ毎日	65.9
週に1~2回程度	62.0
月に1~2回程度	59.7
上記より少ない頻度	57.5

### ⑤保護者との会話

- ・「保護者との会話頻度」で「週に1回以上話をする(含むほぼ毎日)」をみると、「自分のつきたい仕事や保護者の仕事のこと」が25.8%、「社会・政治・経済・金融・国際情勢等のこと」が25.3%、「将来の夢や進路のこと」が22.5%、「家計や生活設計のこと」は14.4%である。(図表54)

(図表54) 保護者との会話頻度(Q14)

設問番号	設問内容	ほぼ毎日話をする	週に1回以上話をする	月に1回以上話をする	ほとんど話をしない	一度もしたことがない	週に1回以上話をする(含むほぼ毎日)
Q14_1	自分のつきたい仕事や保護者の仕事のこと	6.5	19.2	33.5	38.1	2.7	25.8
Q14_2	将来の夢や進路のこと	4.1	18.4	40.6	34.9	2.0	22.5
Q14_3	家計や生活設計のこと	2.9	11.5	25.0	52.2	8.4	14.4
Q14_4	社会・政治・経済・金融・国際情勢等のこと	6.0	19.3	20.6	43.9	10.2	25.3

## ⑥お金を巡る態度

- お金を巡る態度についてみると、「お金はコツコツ働いて貯めるものである」が 80.3%、「お金より大切なものがある」が 72.7%、「法律違反でなければ、どんなことをしてお金をかせいでも良いとは思わない」が 61.2%と高水準になっている。「ギャンブルでお金をかせぐのは良くないことである」は 48.3%と 5 割を下回っている。（図表 55）
- 一方、貯めたお金の使い方として、「困っている人のために寄付したいと思う」は 32.7%、「株式投資をすることは、株主として企業の事業を支えることにつながり、それが社会の発展にもつながる」は 37.4%となっている。（図表 55）

（図表 55） お金を巡る態度（Q13）

(%)

設問 番号	設問内容	そう思う	そう 思わない	どちらともいえ ない
Q13_1	お金より大切なものがある	72.7	8.0	19.3
Q13_2	お金はコツコツ働いて貯めるものである	80.3	5.3	14.5
Q13_3	法律違反でなければ、どんなことをしてお金をかせいでも良い	18.7	61.2	20.0
Q13_4	ギャンブルでお金をかせぐのは良くないことである	48.3	21.6	30.1
Q13_5	困っている人々のためになるのであれば、自分のお金を寄付したいと思う	32.7	21.3	46.0
Q13_6	株式投資をすることは、株主として企業の事業を支えることにつながり、それが社会の発展にもつながる	37.4	12.1	50.5



⑦金融経済の基礎、資産形成、保険の理解

(為替)

- ・ 為替に関する設問では、「1ドル=120円から1ドル=140円になると円高」のスコアが65.5%、「円安は、一般的に、輸出が中心の日本の企業には有利だが、輸入が中心の企業には不利である。」は53.6%となった。(図表56)

(リスク・リターン)

- ・ 「リスクとリターンの基本的理解」は47.4%と5割を下回った。このほか、「金融商品（預貯金、債券、投資信託、株式）のリスクとリターンの関係」が52.5%、「株式投資信託の商品性の理解」が40.8%となった。(図表57)

(保険)

- ・ 「生命保険や損害保険の基本的理解（「保険は万が一への備え）」のスコアが8割。また、自転車に乗る人（8割）のうち、事故に備えて自転車保険に加入している人は8割で、2割弱は保険に加入していない。(図表58)

(図表56) 為替に関する設問のスコア

設問番号	設問内容	スコア (%)
Q17_4	「1ドル=120円」から「1ドル=140円」になったら、「円高」である	65.5
Q17_5	円安は、一般的に、輸出が中心の日本の企業には有利だが、輸入が中心の企業には不利である	53.6

(図表57) 「リスクとリターン」に関する設問のスコア

設問番号	設問内容	①預貯金 ②債券 ③投資信託 ④株式	①預貯金 ②投資信託 ③債券 ④株式	①債券 ②預貯金 ③株式 ④投資信託
Q16	金融商品のリスクとリターン（収益）の関係図について、①～④にあてはまる正しい組み合わせ	52.5	35.3	12.2

※網掛け部分は正しい回答

設問番号	設問内容	スコア (%)
Q17_1	リスクが低くリターンが高い金融商品はない	47.4
Q17_2	投資をする場合、1社の株だけを買うことは、通常、株式投資信託（何社かの株式に分けて投資する金融商品）を買うよりも安全な投資である	40.8

(図表58) 保険に関するスコア等

設問番号	設問内容	あてはまる (%)	あてはまらない (%)
Q9_8	自転車での事故による損害賠償に備えて、自転車保険に加入している	81.7	18.3

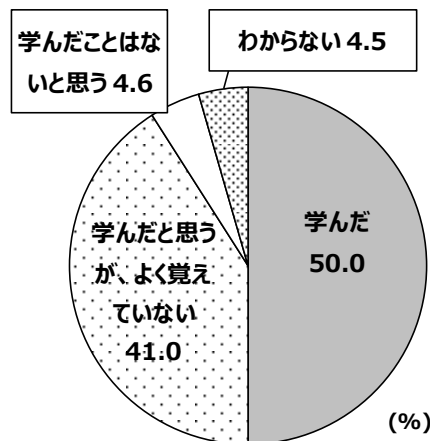
設問番号	設問内容	スコア (%)
Q17_18	生命保険や損害保険は万一の備えとして用いられる	80.5

⑧学校での金融教育

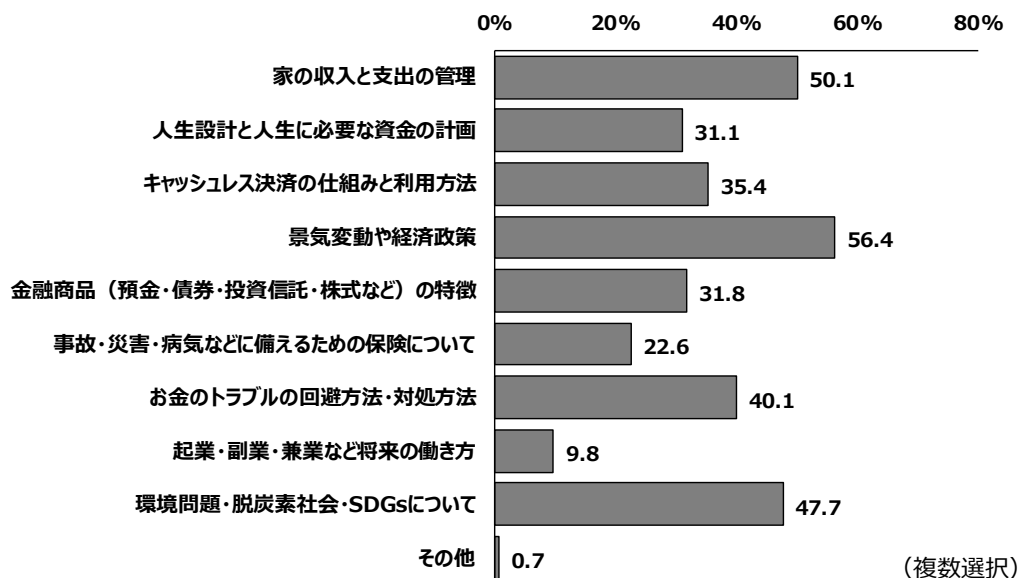
- ・ 中学校の授業で「お金（家計・くらし）のことを学んだか」では、「学んだ」が 50.0%、「学んだがよく覚えていない」が 41.0%となった。「学んだ」内容としては、「景気変動や経済政策」が 56.4%で最も高く、次いで、「家の収入と支出の管理」が 50.1%、「環境問題・脱炭素社会・SDGs」が 47.7%、「お金のトラブルの回避方法・対処方法」が 40.1%と続く。（図表 59、60）
- ・ 「学校の授業でお金のことを教えてほしいか」では、「そう思う」が 79.8%、「そう思わない」が 5.8%。「そう思う」と回答した人が「教えてほしいこと」については、「お金のトラブルの回避方法・対処方法」が 59.6%と最も高く、次いで、「ローン（住宅ローン・教育ローン・奨学金など）の仕組みや活用方法」が 55.8%、「収入と支出の管理」が 55.5%、「人生設計と人生に必要な資金の計画」が 53.0%と続く。（図表 61、62）

（図表 59）中学校でお金（家計・くらし）のことを学んだか（Q20\_1）

※地域別の結果は後掲（参考 2）参照。

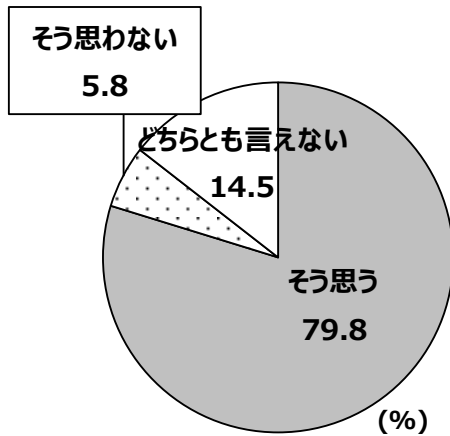


（図表 60）中学校で学んだお金（家計・くらし）の内容について※（Q20\_2）

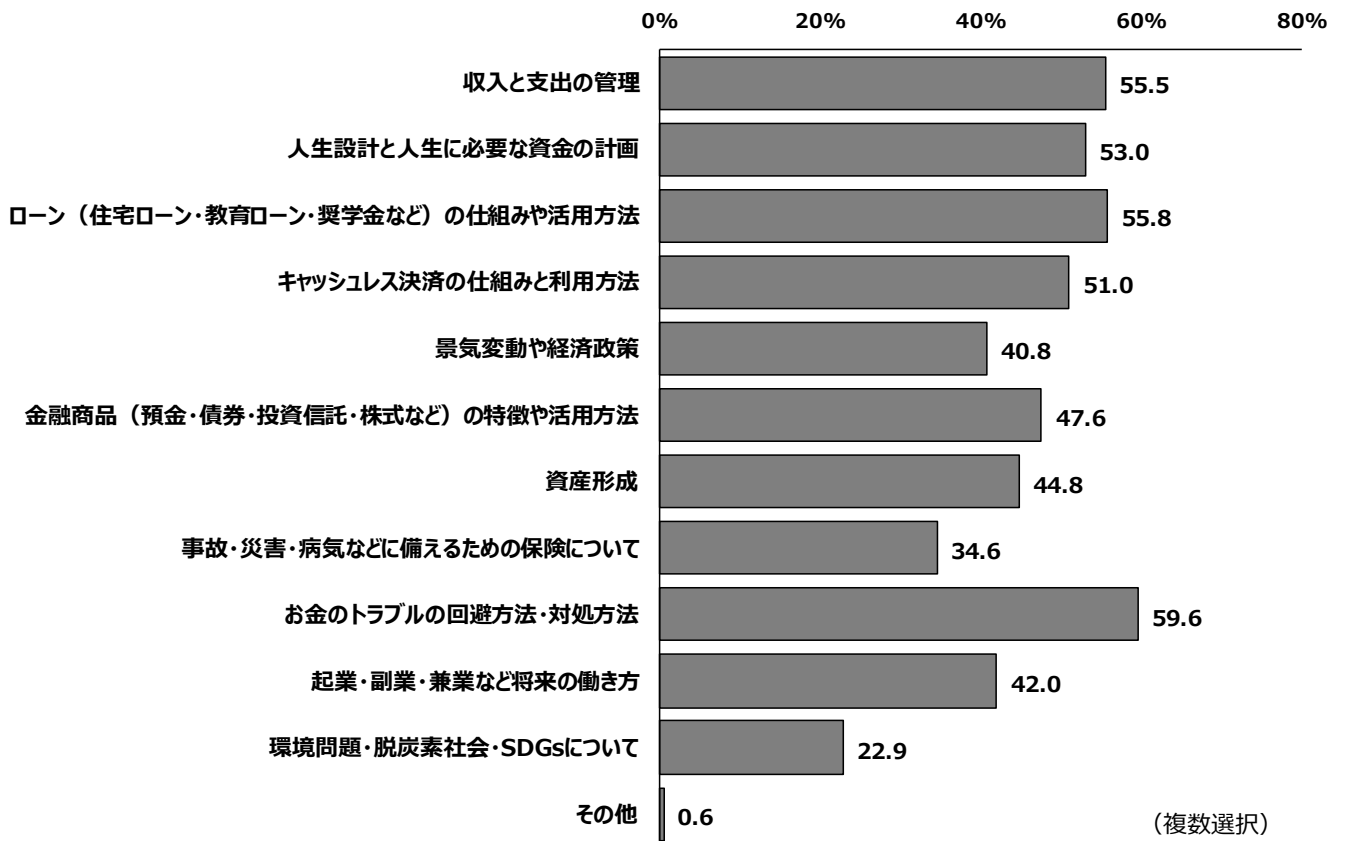


※「学んだ」および「学んだが、よく覚えていない」の回答の計

(図表 61) 学校の授業でお金のことについて教えてほしいか (Q21\_1)



(図表 62) 学校の授業で教えてほしいお金のことについて (Q21\_2)



⑨進路、職業選択

(進路)

- ・「高校卒業後の進路希望」は、「就職せずに大学などに進学したい」が 77.4%、「就職したい」(以下「就職」)が 19.9%となった。(図表 63)

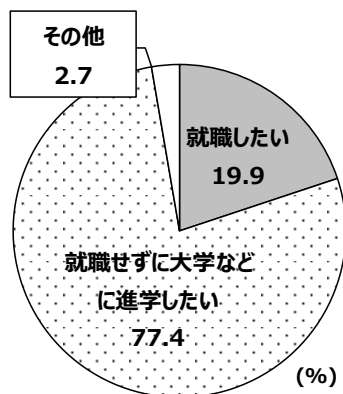
—— スコアをみると、全体 (60.3%) に対し、「就職せずに大学などに進学したい」が 61.9%、「就職したい」が 55.0%となった。特に、「就職」希望者に対しては、高校の授業において社会人として最低限必要な金融リテラシーを十分身に付けさせることが重要である。(図表 64)

(職業選択)

- ・「将来、職業を選択する際に大事にしたいこと」については、「好きなことを仕事にしたい」が 72.8%で最も高く、次いで、「安定している」が 62.9%、「収入が高い」が 60.4%と続く。(図表 65)

—— スコアとの関係をみると、「仕事を通じて社会貢献できる」を選択した人が 64.9%、「起業したい」が 63.9%、「社会的地位や名誉」が 63.6%とスコアが高い傾向がみられる。(図表 66)

(図表 63) 高校卒業後の進路希望 (Q22\_1)

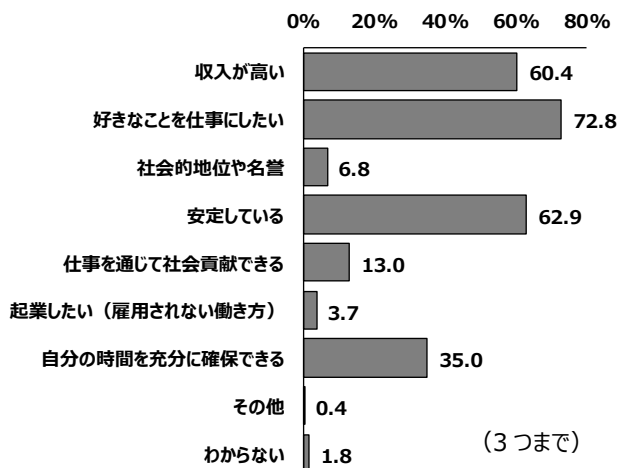


(図表 64) 進路希望別スコア

(%, ( ) はサンプル数)

進路希望	スコア
就職したい (597)	55.0
就職せずに進学したい (2,322)	61.9
その他 (81)	53.7

(図表 65) 将来、職業を選択する際に大事にしたいこと (Q22\_2)



(図表 66) 選択項目別スコア

(%, ( ) はサンプル数)

選択項目	スコア
収入が高い (1,811)	61.0
好きなことを仕事にしたい (2,184)	60.6
社会的地位や名誉 (204)	63.6
安定している (1,887)	61.1
仕事を通じて社会貢献できる (391)	64.9
起業したい (雇用されない働き方) (112)	63.9
自分の時間を十分に確保できる (1,050)	61.1
その他 (12)	63.5
わからない (53)	44.2

### (3) 金融リテラシースコアの階層別にみた特徴

- 金融リテラシー設問のスコアの高い・低い層※の主な特徴点や傾向は以下のとおり。(図表 67～80)

※ 「スコア」の上位 25.3%を「高リテラシー」(スコア 73%超)、下位 24.9%を「低リテラシー」(スコア 50%未満)に分類、残り 49.8%を「中リテラシー」(スコア 50%～72%)に分類。

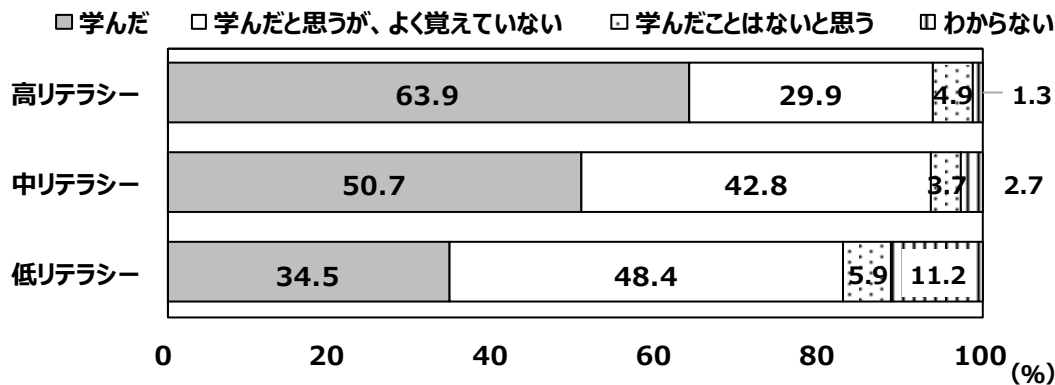
	設問項目	高リテラシー		低リテラシー	
		多い	(%)	少ない	(%)
金融教育	中学校で金融教育を「学んだ」	多い	(63.9%)	少ない	(34.5%)
	学校の授業で金融教育を「教えてほしい」	多い	(90.1%)	少ない	(62.2%)
行動・態度	キャッシュレス決済の利用経験がある	多い	(72.4%)	少ない	(58.7%)
	社会・政治・経済・金融・国際に関するニュースを「みたり聞いたりする」	多い	(69.9%)	少ない	(39.7%)
	1日当たりのインターネットの平均利用時間 (3時間以上) ※1	少ない	(38.4%)	多い	(57.8%)
	保護者との仕事や将来の夢などの会話 ※2	多い	(52.0%)	少ない	(34.0%)
	困っている人々のためになるのであれば自分のお金を寄付したいと思う	多い	(38.7%)	少ない	(27.0%)
	高校卒業後の進路希望 (大学進学)	多い	(86.3%)	少ない	(66.6%)
属性	保護者の学歴 (大学・大学院卒)	多い	(74.1%)	少ない	(37.0%)
	家庭状況 (共働き)	—	(66.4%)	—	(63.5%)
	世帯年収 (1,000万円以上 ※3)	多い	(23.2%)	少ない	(6.4%)

※1 「3時間以上 5時間未満」と「5時間以上」の割合の合計。

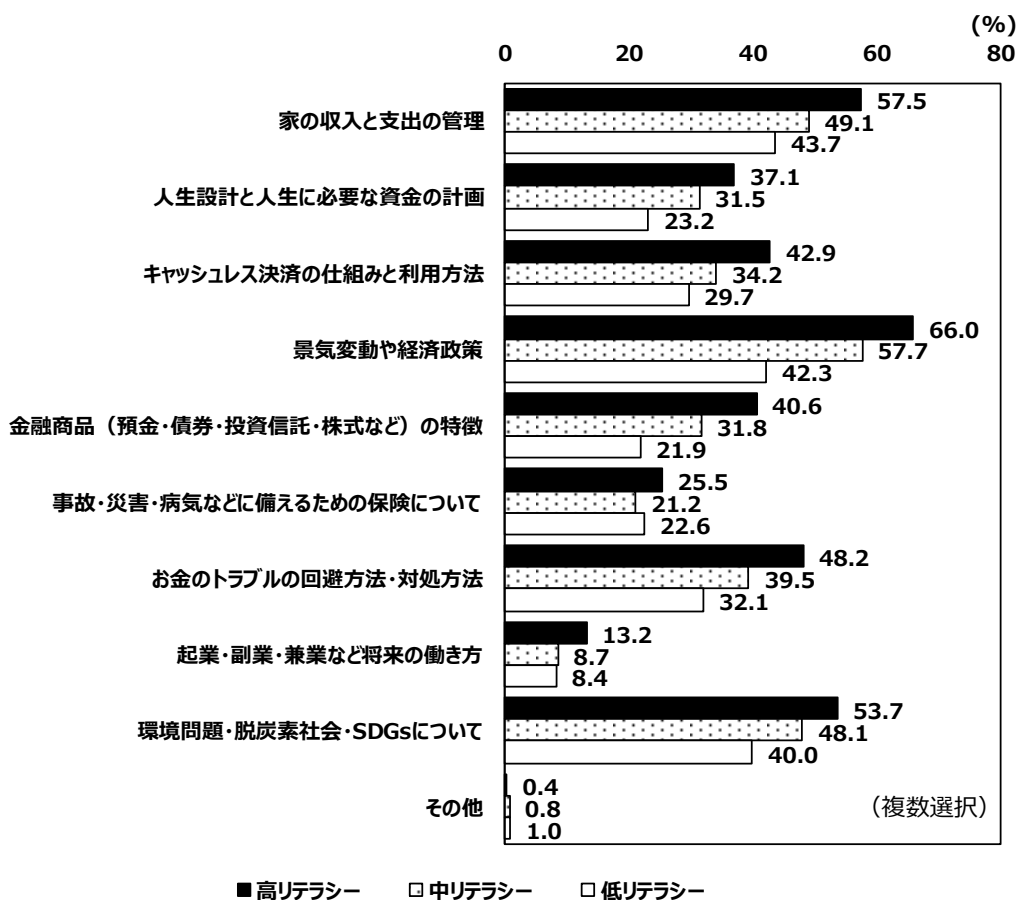
※2 「ほぼ毎日話をする」と「週に1回以上」の割合の合計。

※3 「1,000万円以上 1,200万円未満」、「1,200万円以上 1,500万円未満」、「1,500万円以上 2,000万円未満」、「2,000万円以上」の割合の合計。

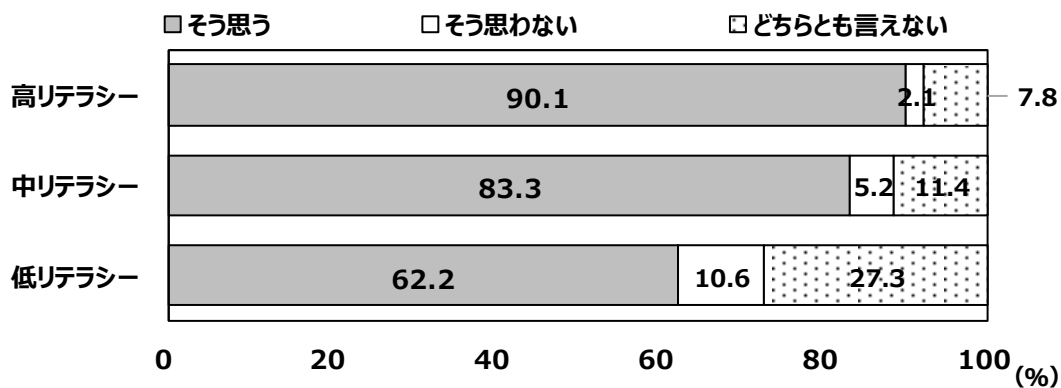
(図表 67) 中学校の授業でお金（家計・くらし）を学んだか（Q20-1）



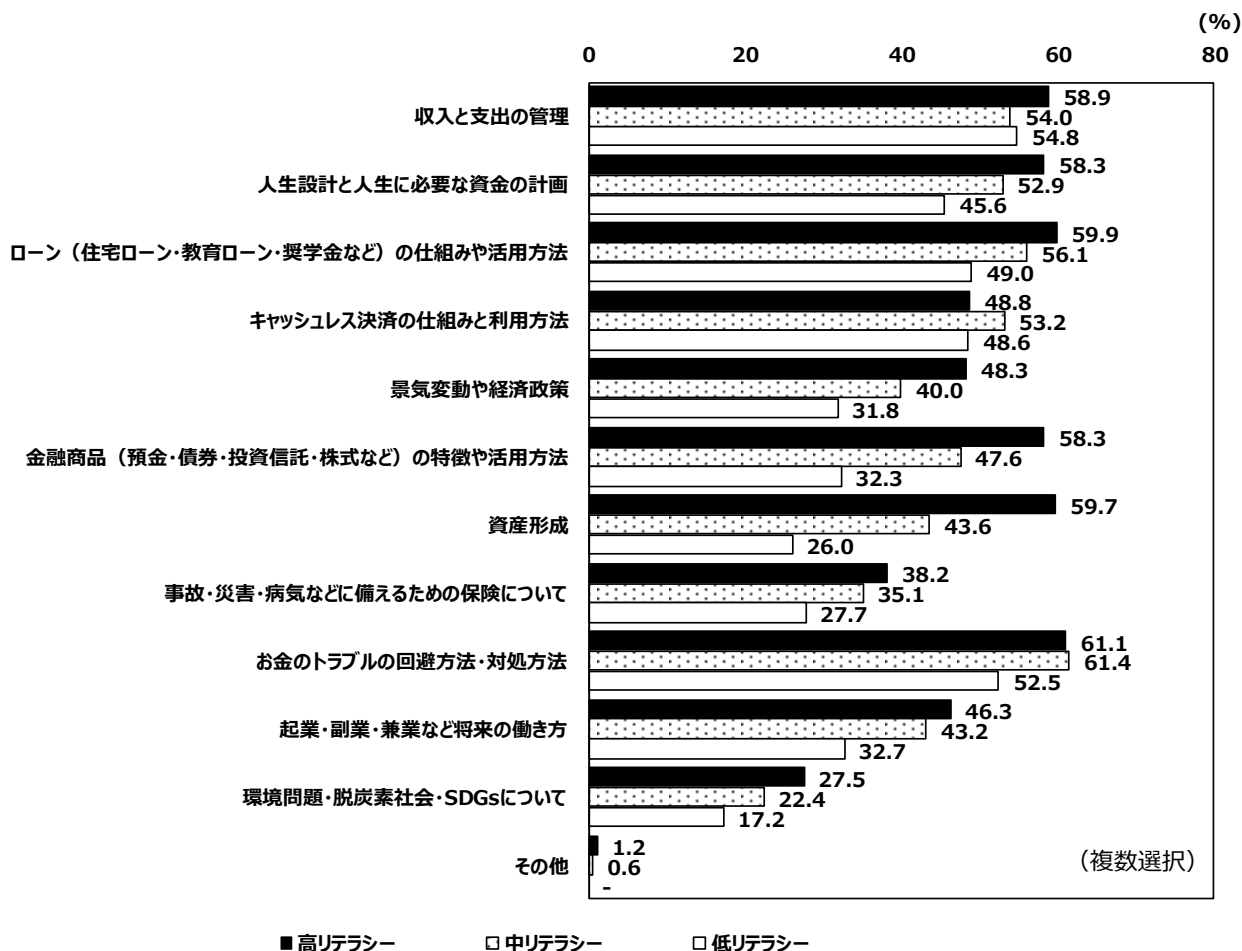
(図表 68) お金（家計・くらし）の何を学んだか（Q20-2）



(図表 69) 学校の授業でお金のことについて教えてほしいか（Q21-1）



(図表 70) 学校の授業で教えてほしいお金に関する内容 (Q21-2)



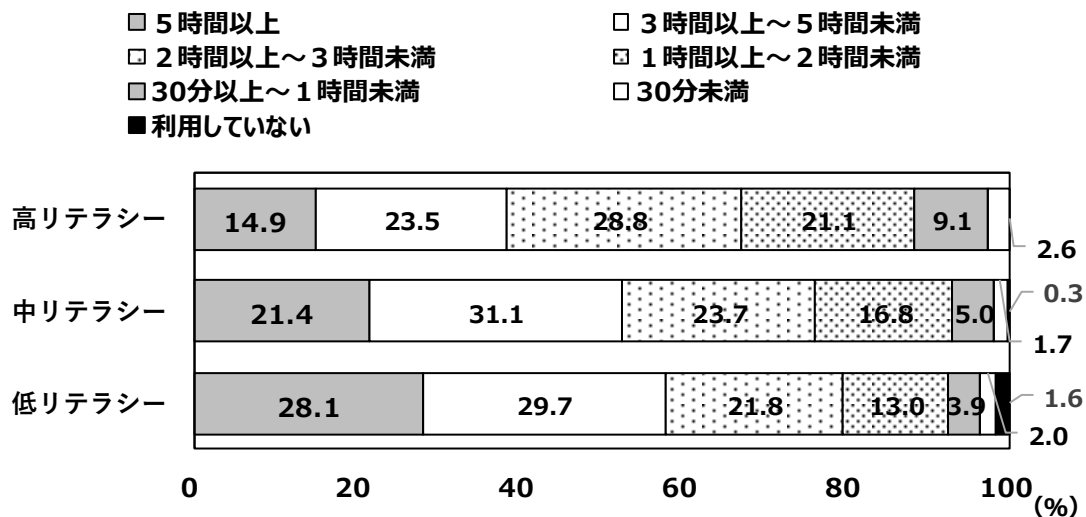
(図表 71) キャッシュレス決済の利用経験 (Q6-1)

	キャッシュレス決済を利用したことがあるか (%)	
	ある	ない
高リテラシー	72.4	27.6
中リテラシー	63.1	36.9
低リテラシー	58.7	41.3

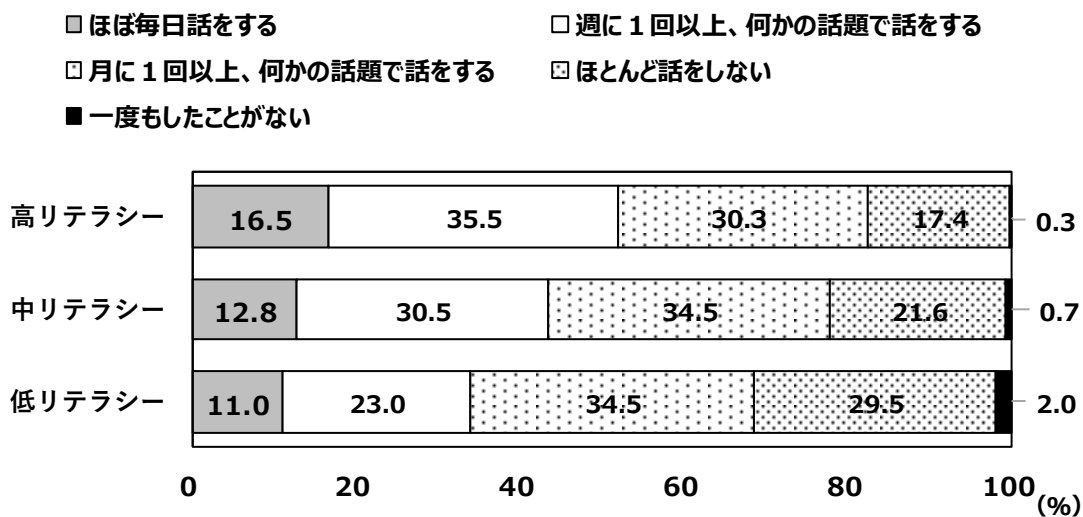
(図表 72) 新聞・テレビ・ニュースサイトなどで、社会・政治・経済・金融・国際に関するニュースを見聞きするか (Q11\_1)

	新聞・テレビ・ニュースサイトなどで、社会・政治・経済・金融・国際に関するニュースを見聞きするか (%)	
	みたり聞いたりする	みたり聞いたりしない
高リテラシー	69.9	30.1
中リテラシー	50.5	49.5
低リテラシー	39.7	60.3

(図表 73) 1日当たりのインターネット平均利用時間 (Q10\_1)

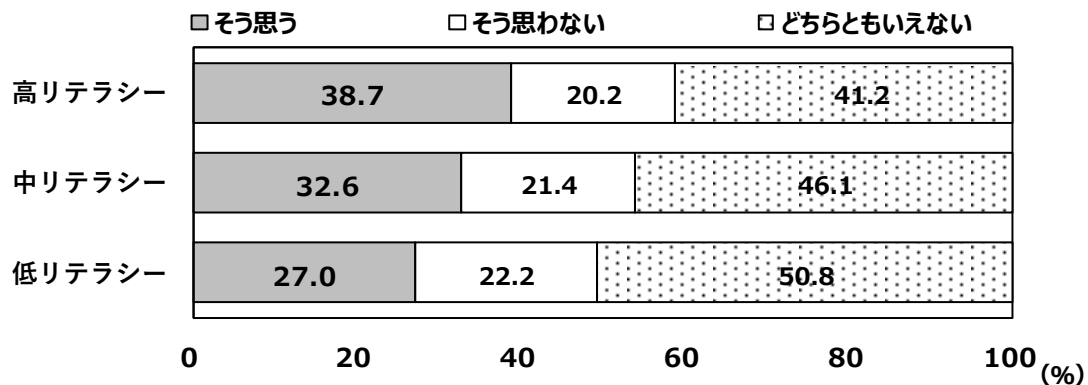


(図表 74) 保護者との会話頻度 (Q14)



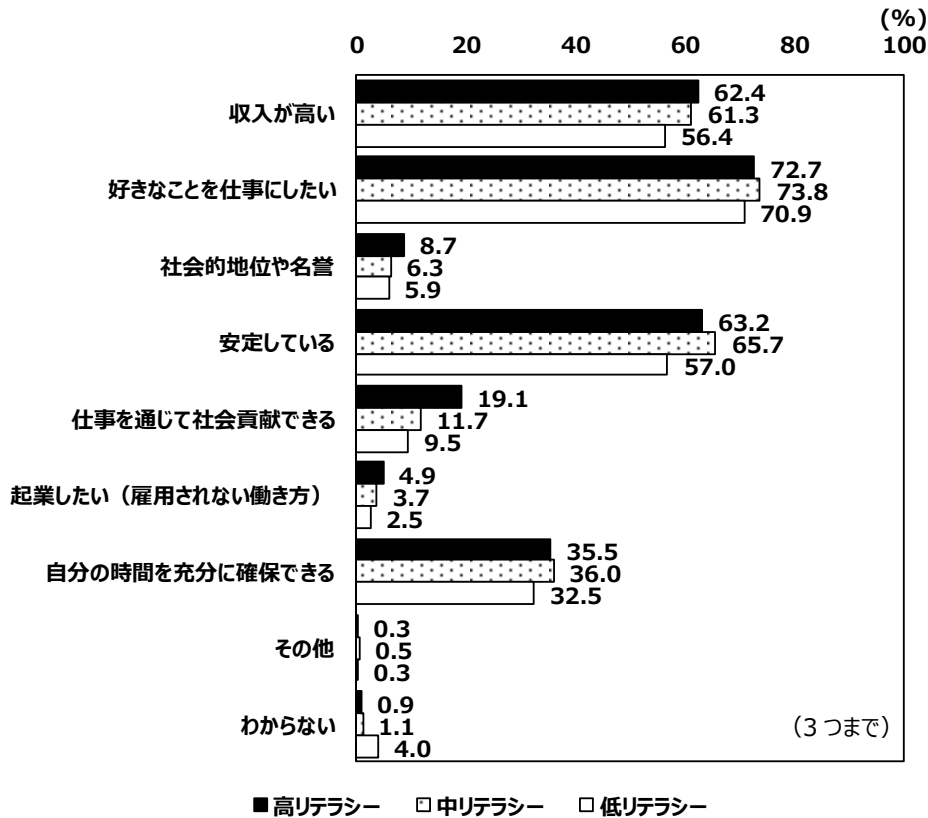
※ 1.自分のつきたい仕事や保護者の仕事のこと、2.将来の夢や進路のこと、3.家計や生活設計のこと、4.社会・政治・経済・金融・国際情勢等のことについての4項目について全体の頻度を集計。

(図表 75) 困っている人々のためになるのであれば、自分のお金を寄付したいと思う (Q13\_5)

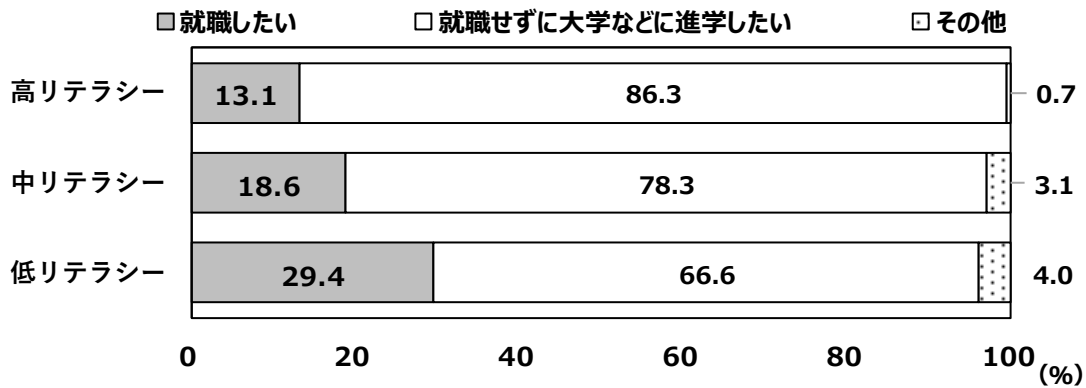




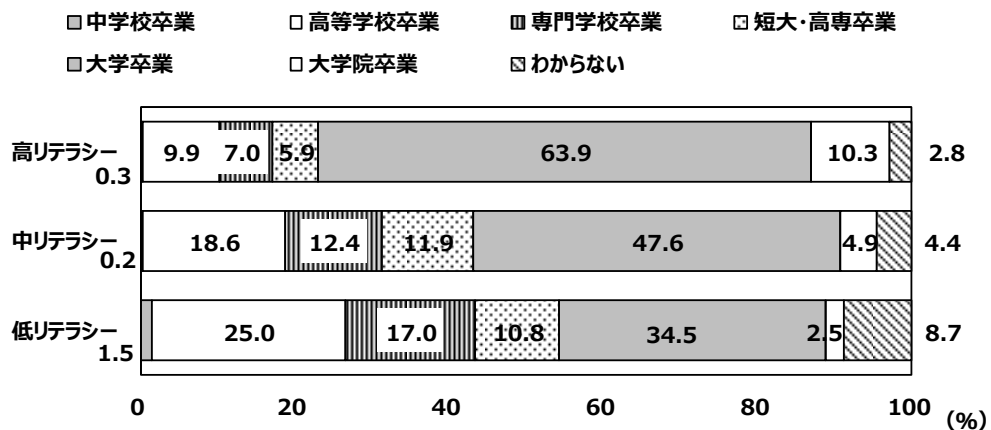
(図表 76) 将来、職業を選択する際に大事にしたいこと (Q22\_2)



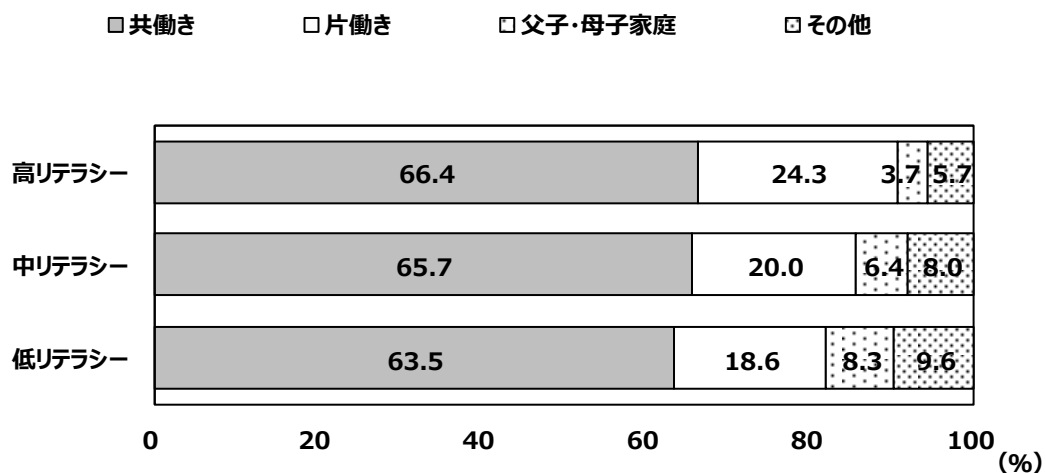
(図表 77) 高校卒業後の進路希望 (Q22\_1)



(図表 78) 保護者の学歴



(図表 79) 家庭状況



(図表 80) 世帯年収

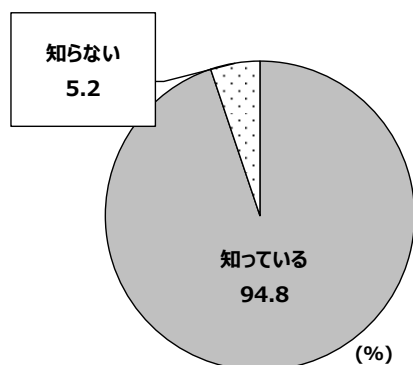
(%)

	金融リテラシー設問の正答率（得点）の分布		
	高リテラシー	中リテラシー	低リテラシー
200万円未満	1.6	2.5	2.9
200万円以上400万円未満	4.2	7.6	10.4
400万円以上600万円未満	11.2	13.0	12.3
600万円以上800万円未満	15.7	15.9	10.7
800万円以上1,000円未満	15.8	11.0	9.1
1,000万円以上1,200万円未満	10.0	5.2	2.8
1,200万円以上1,500万円未満	7.7	4.1	2.5
1,500万円以上2,000万円未満	3.7	1.4	0.8
2,000万円以上	1.8	0.9	0.3
わからない	22.6	31.7	39.3
答えたくない	5.7	6.8	8.8
平均値（万円）	895	744	651

【BOX 1】 成年年齢引き下げについて

- ・ 2022年4月の「成年年齢引き下げ」を知っているのは94.8%。(図表 81)
- ・ しかしながら、「18歳になった高校生が保護者に内緒で購入した商品の契約は取り消せる」との設問のスコアは38.6%、「電話で注文しただけでは口約束なので、売買契約は成立していない」のスコアは48.3%と、成年になるにあたって最低限必要となる契約に関する知識は、この段階では必ずしも身に付いていない。(図表 82)
- ・ 「成年年齢が引き下げられたことをどのように思うか」との設問に対し、「大人として社会の一員になることがうれしい」との回答が20.1%だったのに対し、「トラブルにあうかもしれないので不安」が44.7%、「大人としての社会的責任が生じるのでいやだ」が34.8%と、成人になることにネガティブな回答が上回った。また、「何とも思わない」と回答した人(21.5%)のスコアは他よりも低い。(図表 83)
- ・ 高校等における金融教育を通じて、契約の知識を含めた最低限の金融リテラシーを身に付けさせることで、成人としての自覚を促すとともに、自信を持たせることが重要である。

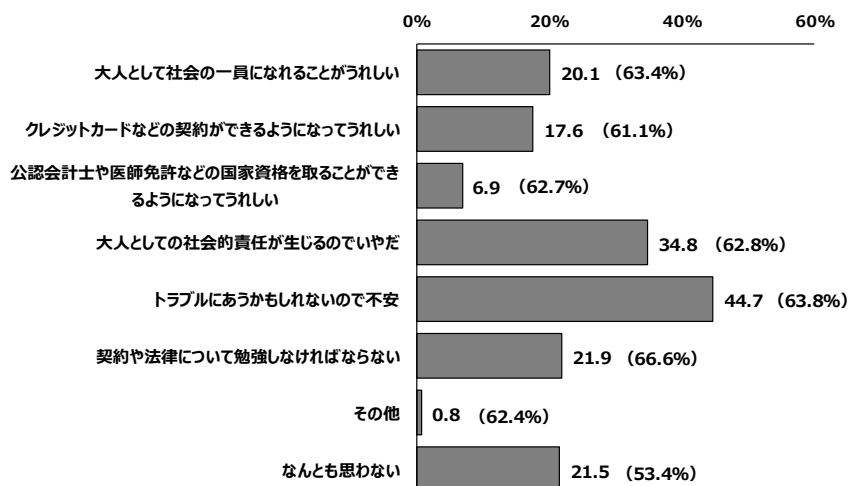
(図表 81) 2022年4月から成年年齢が引き下げられたことを知っているか (Q19\_1)



(図表 82) 金融取引の基本 (契約関係) のスコア

設問番号	設問内容	スコア (%)
Q17_12	18歳になった高校生が保護者に内緒で購入した商品の契約は取り消せる	38.6
Q17_13	電話で注文しただけでは口約束なので、売買契約は成立していない	48.3

(図表 83) 成年年齢が引き下げられたことをどのように思うか (Q19\_2)



(複数選択)

※ ( ) 内は、選択した回答のスコア。

## 【BOX 2】金融リテラシー調査2022年との比較

- ・ 今回調査では、金融リテラシー調査 2022 年における「単利」、「複利」、「投資の損失回避傾向」に関する設問について、同様のものを設けている。
- ・ 「単利」に関する設問のスコアは今回調査全体が 63.0%と金融リテラシー調査全体の 68.0%を下回ったが、18～29 歳の 53.9%を上回った。「複利」に関しては今回調査では 36.4%と、金融リテラシー調査全体の 42.5%より下回ったものの、18～29 歳の 31.3%を上回った。（図表 84）

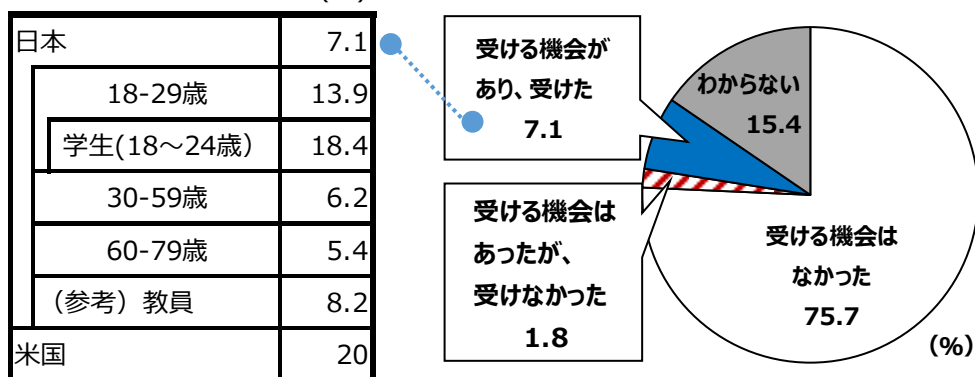
（図表84）単利・複利等に関する設問（金融リテラシー調査結果との比較）

設問番号	設問内容	（%）		
		今回調査	金融リテラシー調査	
		スコア	スコア （全体）	スコア （18～29歳）
Q18_1	100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れました。それ以外、この口座への入金や出金がなかった場合、1年後、残高はいくらになっているか	63.0	68.0	53.9
Q18_2	Q18_1の口座では、5年後には残高はいくらになっているか	36.4	42.5	31.3

- ・ 金融リテラシー調査では、金融教育を受ける機会があり受けた人が 7.1%だったのに対し、今回調査では、中学校の授業でお金とくらしについて「学んだ」との回答が5割となっており、学校での金融教育の取り組みが進んでいることからもうかがわれる。学校段階で金融教育が十分に受けられなかったとみられる社会人（特に若手）への職域での金融教育が重要になっている。（図表 85）
- ・ また、投資実行意欲を問う設問（「10 万円を投資すると、50%の確率で 2 万円の利益か 1 万円の損失のいずれかが発生するとします。」）については、「投資する」の割合は今回調査では 17.5%となり、金融リテラシー調査全体 25.9%（18～29 歳 30.6%）を下回っており、この年代の損失回避傾向が強いことがわかった。（図表 86）資産形成について教える際には、将来に向けた資産を育てることの大切さを教えるだけでなく、リスクとリターンの基本、ライフプランに応じた個人のリスク許容度、長期・積立・分散によりリスクを軽減できることを理解させることが重要と思われる。

(図表85) 「金融リテラシー調査2022年」の結果 (抜粋)

(図表 50) 金融教育の経験 (学校等) <Q39>  
(%)



(図表86) 投資に関する設問 (金融リテラシー調査との比較) ※

設問番号	設問内容	今回調査			金融リテラシー調査 上段：全体 下段：18~29歳	
		投資する	投資しない	わからない	投資する	投資しない
Q12	「10万円を投資すると、50%の確率で2万円の利益か1万円の損失のいずれかが発生するとします。」あなたならどうするか	17.5	56.2	26.3	25.9	74.2
					30.6	69.4

※金融リテラシー調査の設問は、「投資する」「投資しない」の二択設問。

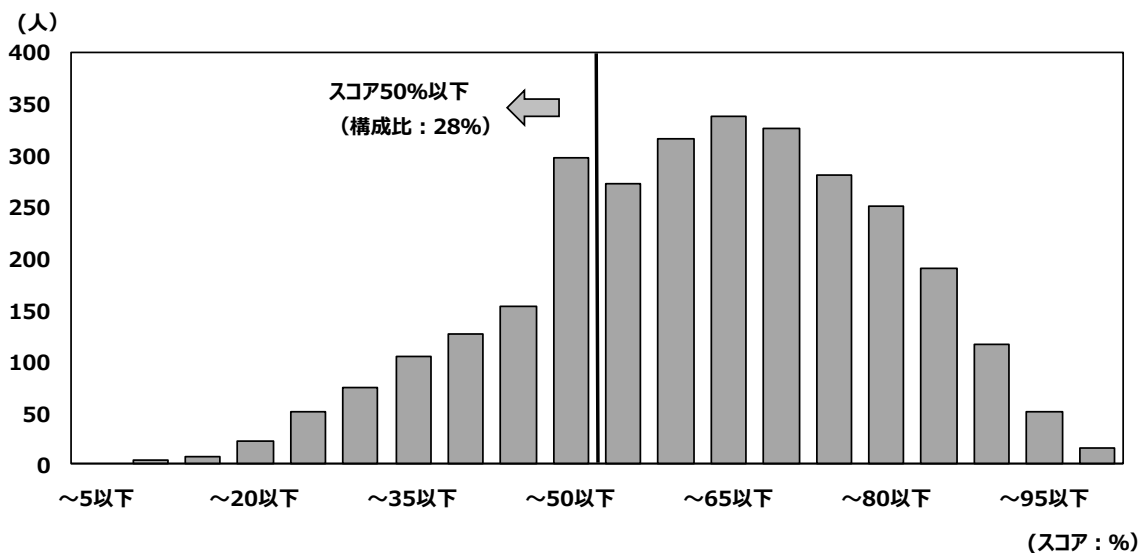
## 4. 今後の課題

### (1) 調査結果を踏まえた学校での金融教育の必要性

#### ① 金融リテラシーの底上げ

- ・ 金融リテラシーを問う設問をもとに作成した金融リテラシースコアについては、50%～60%と想定していたが、全体は60.3%であった。中学校の授業で、「学んだ」人が50%に達しており、学習指導要領の改訂を機に金融教育への取り組みが相応に進んでいることがうかがわれる。
- ・ 一方で、スコアの分布をみると、想定の下限となるスコア 50%以下の人は 28%となるなど、義務教育終了段階で最低限身に付けているべき金融リテラシーが身に付いていない人が相当数いることがわかった。(図表 87)
- ・ 金融教育の取り組みのさらなる強化を通じ、金融リテラシーの全体的な底上げの必要がある。

(図表 87) スコア別の回答者分布



#### ② バランスのとれた金融教育の継続

- ・ 中学校の授業で「学んだこと」と「教えてほしいこと」との回答割合の差（「学んだこと」―「教えてほしいこと」）をみると、「環境問題、SDG s」が+24.9%、「景気変動や経済政策」が+15.6%となった一方で、「起業・副業・兼業など将来の働き方」が▲32.3%、「人生設計や資金計画」が▲22.0%、「お金のトラブル」が▲19.5%、「金融商品の特徴」が▲15.8%、「キャッシュレス決済」が▲15.6%となった。(図表 88)
- ・ 授業の受け手である 15 歳の回答であり、授業の実態や学ぶべきこととの間に差があることは考慮しなければならないが、学校での金融教育の取り組み強化に当たっては、経済政策、社会などのマクロの学びと家計管理や生活設計を含む身近なお金や暮らしにかかるミクロの学びが、バランスよく展開されることが重要である。

- 金融教育は学校で行えば十分というものではない。卒業後、社会人になってからも、ライフステージや経済社会環境に応じた金融リテラシーを身に付ける必要があることから、職域などにおいて継続的に金融教育を実施することも重要である。

(図表 88) 金融教育について中学校で「学んだこと」と「教えてほしいこと」との回答割合の差※

(%,%ポイント)

	家の収入と支出の管理	人生設計と資金の計画に必要資金	キャッシュレス決済の仕組みと利用方法	景気変動や経済政策	投資商品（預金・債券・株式など）の特徴	金融商品（預金・債券・株式など）の特徴	事故・災害・病気などに備えるための保険について	お金のトラブルの回避方法・対処方法	起業・副業・兼業など将来の働き方	環境問題・脱炭素社会・SDGsについて
学んだこと (A)	50.1	31.1	35.4	56.4	31.8	22.6	40.1	9.8	47.7	
教えてほしいこと (B)	55.5	53.0	51.0	40.8	47.6	34.6	59.6	42.0	22.9	
(A) - (B)	▲ 5.4	▲ 22.0	▲ 15.6	+ 15.6	▲ 15.8	▲ 12.0	▲ 19.5	▲ 32.3	+ 24.9	

※「教えてほしいこと」の選択肢のうち「ローン（住宅ローン・教育ローン・奨学金など）」、「資産形成」は除く。

## (2) 金融リテラシーの現状の継続的把握

- 金融教育の企画や実践に当たっては、定期的に金融リテラシーの現状を把握することが重要である。18歳から79歳を対象とした金融リテラシー調査は現在3年毎を目途に行っており、18歳以下の学校段階の子どもを対象とした調査についても同様に継続的に実施していく必要がある。
- なお、今回調査の調査票や集計ツールを「知るぽると」に掲載し中学校や高校などで利用可能とすることで、生徒の金融リテラシーの現状を把握し、生徒に合った金融教育の実施に活用することが期待される。
- また、調査の一部を用いたミニ・クイズ「15歳のお金とくらしの知識・行動に関するクイズ」（詳細は後掲（参考3）を参照）も「知るぽると」に掲載し、より手軽に、金融リテラシーにおける自分の強い分野や弱い分野を把握できるようにする。

(参考1)

## 「子ども調査」と「金融リテラシー調査」の概要

### （「子どものくらしとお金に関する調査」（第3回）2015年度調査の概要）

#### 1. 趣旨・目的：

・学校での金融教育の参考にするため、子どものお金にまつわる日常生活、意識・行動、金融経済に関する基本的知識などについて調査。

#### 2. 調査対象・方法：

・調査対象校は、国内の小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校とし、以下の方法により抽出。①公募による募集 ②無作為抽出法により抽出した先に協力を依頼 ③都道府県金融広報委員会を通じた金融・金銭教育研究校への依頼 ④その他個別校への依頼（教育関係者向けセミナー等に参加した学校など）

・調査対象校へ調査票を郵送し、学校において児童・生徒が自ら記入し回答（学校を通じた自記式調査）。

#### 3. 調査の時期：2015年12月～2016年3月

#### 4. サンプル数：

（小学生）学校数111校 児童数16,329名

（中学生）学校数83校 生徒数13,131名

（高校生）学校数96校 生徒数20,689名

—— 本調査は、2005年度から5年毎に実施（2015年度以降は実施していない）。

### （金融リテラシー調査2022年調査結果の概要）

#### 1. 趣旨・目的

・わが国における個人の金融リテラシー（お金の知識・判断力）の現状を把握すること。

・実施主体は、金融広報中央委員会。2016年から3年おきに実施しており、2022年が3回目の調査。

#### 2. 調査対象・方法

・わが国の人口構成とほぼ同一の割合で収集した18～79歳の30,000人（前回、前々回調査の25,000人から拡充）を対象に、インターネットによるアンケート調査を実施。

#### 3. 設問の特徴

・設問は、「金融リテラシー・マップ」の8分類に基づき、「金融知識・判断力」に関する正誤問題と「行動特性・考え方等」といった金融リテラシーにかかる53問で構成。

#### 4. 調査の時期：2022年2月～3月



(参考2)

## 地域別の集計結果

### (地域別・金融リテラシースコア)

(%、( )はサンプル数：人)

分野	金融リテラシースコア										
	全体 (3,000)	北海道 (118)	東北 (208)	関東 (973)	北陸 (127)	中部 (445)	近畿 (493)	中国 (181)	四国 (89)	九州 (366)	
家計管理	65.6	68.6	60.9	69.0	62.4	64.8	67.0	63.0	62.9	60.6	
生活設計	35.7	38.1	35.3	36.9	33.1	37.4	33.9	36.3	32.0	33.6	
金融知識	金融取引の基本	62.0	61.2	60.6	63.0	62.4	62.4	62.2	62.4	53.6	61.5
	金融・経済の基礎	68.8	63.6	66.9	71.5	64.2	70.3	70.1	65.8	63.4	65.2
	保険	81.1	78.0	79.5	81.4	80.6	82.5	82.4	77.4	75.5	82.2
	ローン・クレジット	42.2	46.0	42.3	44.7	38.6	40.2	41.9	40.5	31.8	41.4
	資産形成	46.9	42.9	42.0	50.8	44.1	47.9	47.0	45.5	43.4	41.8
外部の知見活用	58.7	53.4	58.7	60.9	62.2	57.2	59.3	59.1	48.7	56.8	
合計	60.3	58.4	58.4	62.5	58.1	60.8	60.8	58.8	54.1	57.8	

### (地域別・中学校の授業でのお金(家計・暮らし)のことに学んだか(Q20\_1))

(%、( )はサンプル数：人)

	全体 (3,000)	北海道 (118)	東北 (208)	関東 (973)	北陸 (127)	中部 (445)	近畿 (493)	中国 (181)	四国 (89)	九州 (366)
①学んだ	50.0	49.2	48.6	49.9	55.9	51.7	49.1	47.5	44.9	50.8
②学んだと思うが、よく覚えていない	41.0	38.1	43.8	41.8	36.2	38.9	40.4	43.6	43.8	41.0
③学んだことはないと思う	4.6	6.8	3.8	3.8	2.4	4.9	5.7	5.0	9.0	3.8
④わからない	4.5	5.9	3.8	4.4	5.5	4.5	4.9	3.9	2.2	4.4
(学んだ・計) ①+②	91.0	87.3	92.3	91.8	92.1	90.6	89.5	91.2	88.8	91.8

(参考3)

調査結果を活用した学習ツール

「15歳のお金とくらしの知識・行動に関するクイズ」

—— クイズに挑戦して、自分の金融リテラシーを確認しよう！

次の設問について正誤をお答えください	
問1	将来の生活設計を考える上では人生において支出額の大きい費用について計画的に準備することが重要である。一般的に人生の三大費用と言われるのは、「住宅費」、「子どもの教育費」、「医療費」である。
問2	電話で注文しただけでは口約束なので、売買契約は成立していない。
問3	消費者トラブルの被害に遭った時の電話相談窓口として、消費者ホットライン（188番）がある。
次の設問について正解と思うものを1つずつ、選択して下さい。	
問4	<p>年率2%の利息がつく預金口座に100万円を預け入れた場合、5年後の残高はいくらになっているでしょうか（この口座への入金や出金はなく、利息にかかる税金は考慮しない）。</p> <p>1. 110万円より多い    2. ちょうど110万円  3. 110万円より少ない    4. 与えられた条件だけでは答えられない  5. わからない</p>
問5	<p>次の図は、金融商品のリスクとリターンの一般的な関係を示したイメージ図です。①～④にあてはまる金融商品をお選びください。</p> <p>※ リスク（結果がわからない不確実な状態）は右に行けば行くほど高くなり、リターン（将来得られる収益）は上に行けば行くほど高くなります。</p> <p>預貯金 預金と貯金。金融機関が利息の支払い、元本の返還などを預金者に約束する。預金保険制度などにより一定の範囲内で元本とその利息が保護される。</p> <p>債券 国や企業などの発行体が、投資家から資金を借り入れるために発行する有価証券</p> <p>投資信託 投資家から集めたお金をひとつの大きな資金としてまとめ、運用の専門家が株式や債券などに投資・運用する商品</p> <p>株式 株式会社が資金を出資してもらった人に対して発行する証券</p> <p>1. ①預貯金 ②債券 ③投資信託 ④株式  2. ①預貯金 ②投資信託 ③債券 ④株式  3. ①債券 ②預貯金 ③株式 ④投資信託</p>

## 「15歳のお金とくらしの知識・行動に関するクイズ」の正解

- 100点満点で採点して下さい。設問は、金融リテラシー・マップの4分野の重要項目から構成されています。採点結果から、ご自身の強い分野や弱い分野をご確認下さい。
- あなたの得点を、「15歳のお金とくらしに関する知識・行動調査」（3,000人が回答）の全国平均やお住まいの地域の平均と比較することができます。

問	正答	金融リテラシー・マップ上の分類	説明
問1	誤	生活設計	人生にはいろいろなお金がかかります。大きな支出のうち「老後費用」「住宅費用」「教育費用」を「人生の3大費用」といいます。
問2	誤	金融取引の基本	契約は、自分と相手が合意（「買います」⇔「売ります」など意思表示が合致）すれば口頭での合意でも成立します。
問3	正	外部の知見の適切な活用	消費者ホットラインに電話をすると、近くの消費生活センターの相談窓口を案内してくれます。全国共通の電話番号「188（いやや!）」と覚えましょう。
問4	1	金融・経済の基礎	お金を預けると「利子（利息）」がつきます。「その利子にもまた利子がつく」ことを複利といいます。複利の場合、利子を元金に組み入れて運用するため長期的には大きな効果があります。
問5	1	資産形成	金融商品（預金、債券、株式など）の特徴は「安全性」「収益性」「流動性」の3つのポイントから見ることができ、「安全性」と「収益性」が両立することはありません。

(あなたの得点)

正答数	5問	4問	3問	2問	1問	0問
得点	100点	80点	60点	40点	20点	0点

(2023年調査の回答者3,000人のクイズ5問の平均点)

	平均 得点	正答率(%)				
		問1	問2	問3	問4	問5
北海道	38.5	16.9	45.8	46.6	34.7	48.3
東北	39.2	17.8	44.2	55.8	30.8	47.6
関東	43.1	18.2	48.6	54.2	39.8	54.9
北陸	40.2	11.8	48.8	59.1	28.3	52.8
中部	42.5	17.3	49.9	52.6	36.6	56.2
近畿	42.4	15.4	49.7	54.4	39.6	52.9
中国	39.3	17.1	47.5	51.4	34.8	45.9
四国	36.2	15.7	31.5	43.8	32.6	57.3
九州	39.2	13.7	50.8	53.6	30.9	47.0
合計	41.4	16.6	48.3	53.4	36.4	52.5

## 5. 調査要綱

### (1) 調査の目的

本調査は、金融広報中央委員会が、わが国の個人の金融リテラシー（お金の知識や判断力）の現状を把握する一環として、義務教育終了後 1 年以内の高等学校 1 年生を対象に実施するものである。これは、今後も金融教育を、より効果的かつ効率的に実施していくための基礎情報を収集することを目的としている。

### (2) 調査の内容

本調査の設問は、金融リテラシー・マップの各分類における①金融知識・判断力と②行動特性・考え方等に関する設問から構成されている（設問内容については、「6. 調査票（単純集計データ）」を参照）。

### (3) 調査対象者の選定方法

- ①対象は、義務教育終了後 1 年以内の高等学校 1 年生（15～16 歳）の個人。
- ②回答者数は 3,000 を有効回収数として確保する設計とし、直近（令和 2 年）の国勢調査データにおける地域別（北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州の 9 地域）の 15 歳人口構成比に基づき、地域別に回答者割付けを行なった（図表 89 参照）。
- ③調査会社にモニター登録している者の中から、上記①の条件を満たす対象者を特定し、地域別構成割付を確保するよう無作為に抽出。

### (4) 調査の方法

対象モニターに調査を依頼し、対象モニターが指定の URL にアクセスすることによって、インターネット画面上から調査アンケート票に回答入力する調査方法（インターネット調査）を採用した。

### (5) 調査の時期

2023 年 6 月 15 日(木)～7 月 14 日(金)

### (6) 委託先

調査の実施および結果の集計は、株式会社日本リサーチセンターに委託した。

(図表 89) 今回調査の標本属性および有効回収モニター構成の結果

	本調査標本数 (A)	本調査構成比 (B)	(人、%)		本調査有効回収 モニター数 (人)
			国勢調査構成比 (C)	国勢調査対比 (B) - (C)	
全体	3,000	100.0	100.0	0.0	3,000
北海道	118	3.9	3.9	0.0	118
東北	208	6.9	6.9	0.0	208
関東	973	32.4	32.4	0.0	973
北陸	127	4.2	4.2	0.0	127
中部	445	14.8	14.8	0.0	445
近畿	493	16.4	16.4	0.0	493
中国	181	6.0	6.0	0.0	181
四国	89	3.0	3.0	0.0	89
九州	366	12.2	12.2	0.0	366

## 6. 調査票（単純集計データ）

（注）回答欄に併記された数値は、断りのない限り、回答比率（%、小数点第2位四捨五入）

### 属性情報

#### 中学校所在地（地域別）

1	北海道	3.9%
2	東北	6.9%
3	関東	32.4%
4	北陸	4.2%
5	中部	14.8%
6	近畿	16.4%
7	中国	6.0%
8	四国	3.0%
9	九州	12.2%

#### 性別

1	男性	39.1%
2	女性	60.9%

#### 保護者の職業

1	学生(大学・短大・専門学校・院生)	0.1%
2	会社員	71.7%
3	公務員（除く教員）	11.6%
4	教員（公立・私立を問いません）	4.6%
5	自営業	10.8%
6	パート・アルバイト	40.3%
7	専業主婦／主夫	22.6%
8	その他	8.0%
9	父親・母親が2人ともいない	0.0%

#### 保護者の学歴（保護者の学歴が高い方）

1	中学校卒業	0.5%
2	高等学校卒業	18.0%
3	専門学校卒業	12.2%
4	短大・高専卒業	10.1%
5	大学卒業	48.4%
6	大学院卒業	5.7%
7	わからない	5.1%

#### 世帯年収

1	200万円未満	2.4%
2	200万円以上400万円未満	7.4%
3	400万円以上600万円未満	12.4%
4	600万円以上800万円未満	14.5%
5	800万円以上1000万円未満	11.8%
6	1000万円以上1200万円未満	5.8%
7	1200万円以上1500万円未満	4.6%
8	1500万円以上2000万円未満	1.8%
9	2000万円以上	1.0%
10	わからない	31.3%
11	答えたくない	7.0%
12	平均値（万円）	769万円

#### 家庭状況（パート・アルバイトを有職に含む）

1	共働き	65.3%
2	片働き	20.7%
3	父子・母子家庭	6.2%
4	その他	7.8%

## 「高校1年生を対象にしたお金に関するアンケート」

## 高校1年生にお聞きします

「全員」がお答えください

Q1\_1 「おこづかい」をもらっていますか。(主にあてはまるものをひとつだけ)

1	もらっている(定期的に定額を)	61.2%
2	もらっている(必要な時に受け取る)	25.9%
3	もらっている(お手伝いなどをすることで)	2.3%
4	もらっていない	10.5%

Q1\_1で「1～3. おこづかいをもらっている」と回答した方がお答えください

Q1\_2 「おこづかい」は主に何でもらいましたか。(ひとつだけ)

1	現金	87.7%
2	キャッシュレス(電子マネーなど現金以外)	1.8%
3	現金とキャッシュレス(現金以外)の両方	10.5%

Q1\_1で「1～3. おこづかいをもらっている」と回答した方がお答えください

Q1\_3 1か月に「おこづかい」をいくらもらっていますか。(半角数字)

※月によって、おこづかいの金額が違う場合は、平均的にもらう金額をお答えください。

平均値	4,787	円
中央値	5,000	円
最頻値	5,000	円

Q1\_1で「1～3. おこづかいをもらっている」と回答した方がお答えください

Q1\_4 あなたの「おこづかい」の使い方について、最も近いと思うものをお選びください。(ひとつだけ)

1	毎月貯金額を決め、それ以外を使っている	9.5%
2	計画的に使い、毎月ほぼ使い切る(貯金はしない)	10.2%
3	特に計画はもたずに必要な時に使い、余れば貯金する	51.4%
4	特に計画はもたずに必要な時に使い、毎月ほぼ使い切る(貯金はしない)	14.5%
5	特に計画はもたずに必要な時に使うが、不足することがある	12.2%
6	ほぼ全額を貯金している(金融機関または保護者に預けている)	2.2%

「全員」がお答えください

Q2\_1 今年のお正月に「お年玉」をもらいましたか。(ひとつだけ)

1	もらった	96.9%
2	もらわなかった	3.1%

Q2\_1で「1. お年玉をもらった」と回答した方がお答えください

Q2\_2 「お年玉」は主に何でもらいましたか。(ひとつだけ)

1	現金	98.7%
2	キャッシュレス(電子マネーなど現金以外)	0.3%
3	現金とキャッシュレス(現金以外)の両方	1.0%

Q2\_1で「1. お年玉をもらった」と回答した方がお答えください

Q2\_3 今年のお正月に「お年玉」を、合計でいくらもらいましたか。(半角数字)

平均値	32,853	円
中央値	30,000	円
最頻値	30,000	円

Q2\_1で「1. お年玉をもらった」と回答した方がお答えください

Q2\_4 もらった「お年玉」の1年以内の使い方について、最も近いと思うものをお選びください。(ひとつだけ)

1	毎年貯金額を決め、それ以外を使っている	19.3%
2	計画的に使い、毎年ほぼ使い切る(貯金はしない)	7.3%
3	特に計画はもたずに必要な時に使い、余れば貯金する	32.2%
4	特に計画はもたずに必要な時に使い、毎年ほぼ使い切る(貯金はしない)	11.8%
5	ほぼ全額を金融機関に貯金している	16.0%
6	ほぼ全額を保護者に預けている	13.4%

「全員」がお答えください

Q3\_1 「おこづかい帳」(お金に関する記録)をつけていますか。(ひとつだけ)

1	つけている	16.3%
2	つけていない	83.7%

Q3\_1で「1. おこづかい帳をつけている」と回答した方がお答えください

Q3\_2 「おこづかい帳」(お金に関する記録)は、何でつけていますか。(ひとつだけ)

1	アプリやソフト	35.7%
2	「おこづかい帳」専用の冊子	57.8%
3	その他	6.6%

「全員」がお答えください

Q4\_1 銀行や郵便局などに、自分の口座(預金や貯金)がありますか。(ひとつだけ)

1	ある	79.3%
2	ない	9.6%
3	わからない	11.1%

Q4\_1で「1. 自分の口座がある」と回答した方がお答えください

あなたの口座(預金や貯金)についてお聞きます。

Q4\_2\_1 自分の預金や貯金の残高を自分で確認していますか。(ひとつだけ)

1	はい	38.3%
2	いいえ	61.7%

Q4-1で「1. 自分の口座がある」と回答した方がお答えください

Q4\_2\_2 インターネットバンキングを利用していますか。(ひとつだけ)

<インターネットバンキングの説明>

インターネットバンキングとは、インターネットを通じて送金したり、残高を確認したりする銀行などの金融取引のサービスのことです。

1	はい	11.8%
2	いいえ	88.2%

「全員」がお答えください

Q5 買い物をする際の情報はどこから収集しますか。よく利用するものを3つまでお選びください。(3つまで)

1	店員・店頭表示、カタログ	32.0%
2	インターネット(ウェブサイト)	65.0%
3	S N S	61.9%
4	新聞	1.0%
5	テレビ	16.9%
6	ラジオ	0.2%
7	雑誌・本	4.6%
8	友人	44.7%
9	家族	18.4%
10	その他	0.2%
11	特になし	4.6%

「全員」がお答えください

Q6\_1 キャッシュレス決済（現金を使わず支払うこと）を利用したことはありますか。（ひとつだけ）

1	ある	64.4%
2	ない	35.6%

Q6\_1で「1. キャッシュレス決済を利用したことがある」と回答した方がお答えください

Q6\_2 利用したことがあるキャッシュレス決済をお選びください。（いくつでも）

<決済手段の説明>

- 商品券・・・例えば、QUOカード、図書カード、文具券、テレホンカード、など。
- 交通系 I Cカード・・・例えば、Suica、PASMO、ICOCA、TOICA、manaca、Kitaca、SUGOCA、nimoca、はやかけん、など。
- スマホ決済・・・例えば、PayPay、Line Pay、楽天ペイ、d払い、auペイ、など。
- インターネット上で音楽・ゲーム・本などを購入できるプリペイドカード  
・・・例えば、iTunesカード、モバコインカード、Amazonギフトカード、Google Playギフトカード、など。
- ポイント・・・例えば、Tポイント、Pontaポイント、など。
- その他の電子マネー・・・例えば、楽天Edy、WAON、nanaco、おさいふPonta、Visaプリペ、など。

1	商品券	36.7%
2	交通系 I Cカード	61.3%
3	スマホ決済	74.5%
4	インターネット上で音楽・ゲーム・本などを購入できるプリペイドカード	15.3%
5	インターネット上のゲームなどの仮想コイン	4.2%
6	デビットカード	2.7%
7	ポイント	29.5%
8	その他の電子マネー	13.6%

Q6\_1で「1. キャッシュレス決済を利用したことがある」と回答した方がお答えください

Q6\_3 キャッシュレス決済の残高や取引履歴の確認はしていますか。（ひとつだけ）

1	使ったその日のうちに必ず確認する	40.0%
2	1週間ごとなど定期的に確認している	4.6%
3	たまに確認する	35.2%
4	していない	20.2%

Q6\_1で「1. キャッシュレス決済を利用したことがある」と回答した方がお答えください

Q6\_4 日常生活の支払手段としてキャッシュレス決済と現金での支払いとでは、どちらを使うことが多いですか。（ひとつだけ）

1	キャッシュレス決済	27.2%
2	現金での支払い	72.8%

Q6\_1で「1. キャッシュレス決済を利用したことがある」と回答した方がお答えください

Q6\_5 現金での支払いよりもキャッシュレス決済の時の方がお金を使い過ぎる傾向がありますか。（ひとつだけ）

1	ある	33.9%
2	ない	29.4%
3	どちらともいえない	36.7%

「全員」がお答えください

キャッシュレス決済には、次のような3つのタイプがあります。主な決済方法として正しいと思うものをお答えください。

<決済方法の説明>

- 前払いタイプ・・・前もって商品券を買ったりカードにチャージ（入金）して支払う方式のこと。
- 即時払いタイプ・・・買おうとする商品と引き換えにその場で代金を支払う方式のこと。
- 後払いタイプ・・・商品を先に手に入れ期日までに一括もしくは分割で支払う方式のこと。

Q6\_6\_1 クレジットカードの主な決済方法は、以下のどのタイプであると思いますか。（ひとつだけ）

1	前払いタイプ	10.7%
2	即時払いタイプ	19.8%
3	後払いタイプ	69.5%



Q6\_6\_2 プリペイド式の電子マネーカードの主な決済方法は、以下のどのタイプであると思いますか。(ひとつだけ)

1	前払いタイプ	58.5%
2	即時払いタイプ	34.3%
3	後払いタイプ	7.2%

Q6\_6\_3 デビットカードの主な決済方法は、以下のどのタイプであると思いますか。(ひとつだけ)

1	前払いタイプ	17.6%
2	即時払いタイプ	59.7%
3	後払いタイプ	22.7%

「全員」がお答えください

クレジットカードの仕組みについてご存じですか。

Q7\_1 クレジットカードを使って商品の購入やサービスの利用をした場合、クレジットカード会社が利用した金額を「立て替え払い」している（クレジット会社に借金をしたことになる）。(ひとつだけ)

1	知っている	54.5%
2	知らない	45.5%

Q7\_2 クレジットカードを利用する場合、通常一括払いなら手数料はかからないが、3回以上の分割払いにした場合、手数料がかかる。(ひとつだけ)

1	知っている	35.7%
2	知らない	64.3%

Q7\_3 リボ払い（リボルビング払い）は、カードの利用金額にかかわらず予め設定した一定の金額を毎月支払う方式である。そのため利用金額が大きくなると返済期間が長くなり、最終的に多額の手数料がかかることがある。(ひとつだけ)

1	知っている	36.3%
2	知らない	63.7%

「全員」がお答えください

Q8-1 自分の持ち物を売ってお金を得た経験はありますか。(ひとつだけ)

1	ある	36.9%
2	ない	63.1%

Q8\_1で「1. 自分の持ち物を売ってお金を得た経験がある」と回答した方がお答えください

Q8\_2 持ち物についてはどのような方法で売却しましたか。(いくつでも)

<売却方法の説明>

※中古品買い取り店舗・・・例えば、ブックオフ、リサイクルマート、高く売れるドットコムなど。

※中古品買い取りアプリ・・・例えば、ブックオフ公式アプリなど。

※ネットオークション・・・例えば、ヤフオク！など。

※フリーマーケット（インターネット）・・・例えば、メルカリ、ラクマなど。

1	中古品買い取り店舗へ持ち込み（送付）	59.5%
2	中古品買い取りアプリを利用	19.9%
3	ネットオークションを利用	14.6%
4	フリーマーケット（対面）	8.4%
5	フリーマーケット（インターネット）	28.2%
6	その他	2.0%

Q8\_1で「1. 自分の持ち物を売ってお金を得た経験がある」と回答した方がお答えください

Q8\_3 売却したことがある持ち物をお選びください。(いくつでも)

1	本・マンガ・参考書など	63.9%
2	音楽や映画（CD・DVD・ブルーレイ）など	25.2%
3	衣類・くつなど身につけるもの	28.0%
4	カバン・財布・時計・アクセサリーなど	12.8%
5	プラモデル・ゲームカセットなどの玩具類	36.2%
6	楽器・スポーツ用品など	4.9%
7	その他	14.5%

「全員」がお答えください

あなたの行動に該当すると思うものをお選びください。

Q9\_1 ものを買う前に、必要なものか、欲しいものかについて考えて買うようにしている。(ひとつだけ)

1	あてはまる	74.8%
2	あてはまらない	8.6%
3	どちらともいえない	16.6%

Q9\_2 買い物をする時、情報を集めて、複数のお店や商品と比較してから買うようにしている。(ひとつだけ)

1	あてはまる	58.3%
2	あてはまらない	21.2%
3	どちらともいえない	20.4%

Q9\_3 環境に配慮した商品を買うようにしている。(ひとつだけ)

1	あてはまる	14.1%
2	あてはまらない	51.4%
3	どちらともいえない	34.5%

Q9\_4 買い物をした時に、レシートやおつりの金額を確認している。(ひとつだけ)

1	あてはまる	54.7%
2	あてはまらない	27.4%
3	どちらともいえない	17.9%

Q9\_5 購入した商品に欠陥がないか確認し、欠陥があれば返品・交換している。(ひとつだけ)

1	あてはまる	48.7%
2	あてはまらない	25.1%
3	どちらともいえない	26.3%

Q9\_6 保証書や取扱説明書を保管している。(ひとつだけ)

1	あてはまる	47.7%
2	あてはまらない	30.1%
3	どちらともいえない	22.3%

Q9\_7 パソコンやスマートフォンでのオンラインゲームの課金トラブルや悪質商法のトラブルに巻き込まれないように、日頃から気を付けている。(ひとつだけ)

1	あてはまる	77.4%
2	あてはまらない	7.0%
3	どちらともいえない	15.6%

Q9\_8 自転車での事故による損害賠償に備えて、自転車保険に加入している。(ひとつだけ)

1	あてはまる	66.8%
2	あてはまらない	14.9%
3	自転車に乗らない	18.2%

Q9\_9 自分のスマートフォンやアプリのパスワードを友人が知っている。(ひとつだけ)

1	あてはまる	11.4%
2	あてはまらない	87.1%
3	スマートフォン等の機器を所有していない	1.5%

「全員」がお答えください

Q10\_1 授業以外で、インターネットを平均して1日どれくらいの時間利用しますか。(ひとつだけ)

※パソコン、タブレット、スマートフォン、いずれのインターネット利用も含みます。

1	5時間以上	21.4%
2	3時間以上～5時間未満	28.8%
3	2時間以上～3時間未満	24.5%
4	1時間以上～2時間未満	16.9%
5	30分以上～1時間未満	5.7%
6	30分未満	2.0%
7	利用していない	0.5%

Q10\_1で「1～6.インターネットを利用している」と回答した方がお答えください

Q10\_2 授業以外で、インターネットはどのようなときに利用しますか。(いくつでも)

※パソコン、タブレット、スマートフォン、いずれのインターネット利用も含まれます。

1	調べものをするとき	82.4%
2	メールをするとき	30.9%
3	メッセージアプリ（例えば、LINE など）を利用するとき	79.5%
4	SNS・動画投稿サイトを利用するとき	78.8%
5	ゲームをするとき	61.1%
6	テレビ・映画をみるとき	23.7%
7	音楽を聴くとき	70.8%
8	マンガ・雑誌・小説を読むとき	32.2%
9	ニュースを読むとき	20.9%
10	ネットショッピングをするとき	23.6%
11	オークションに参加するとき	1.9%
12	懸賞に応募するとき	3.8%
13	電話をするとき	30.8%
14	その他	0.5%

「全員」がお答えください

Q11\_1 新聞・テレビ・ニュースサイトなどで、社会・政治・経済・金融・国際に関するニュースをみたり聞いたりしますか。(ひとつだけ)

1	みたり聞いたりする	52.7%
2	みたり聞いたりしない	47.3%

Q11\_1で「1.社会・政治・経済・金融・国際に関するニュースをみたり聞いたりする」と回答した方がお答えください

Q11\_2 新聞・テレビ・ニュースサイトなどで、社会・政治・経済・金融・国際に関するニュースをどのくらいみたり聞いたりしますか。(ひとつだけ)

1	ほぼ毎日	52.1%
2	週に1～2回程度	40.3%
3	月に1～2回程度	5.9%
4	上記より少ない頻度	1.7%

「全員」がお答えください

Q12 投資に関するあなたのお考えをお聞きます。10万円を投資すると、50%の確率で2万円の利益か1万円の損失のいずれかが発生するとします。あなたなら、どうしますか。(ひとつだけ)

1	投資する	17.5%
2	投資しない	56.2%
3	わからない	26.3%

「全員」がお答えください

あなたの考えに該当すると思うものをお選びください。

Q13\_1 お金より大切なものがある。(ひとつだけ)

1	そう思う	72.7%
2	そう思わない	8.0%
3	どちらともいえない	19.3%

Q13\_2 お金はコツコツ働いて貯めるものである。(ひとつだけ)

1	そう思う	80.3%
2	そう思わない	5.3%
3	どちらともいえない	14.5%

Q13\_3 法律違反でなければ、どんなことをしてお金をかせいでも良い。(ひとつだけ)

1	そう思う	18.7%
2	そう思わない	61.2%
3	どちらともいえない	20.0%

**Q13\_4 ギャンブルでお金をかせぐのは良くないことである。(ひとつだけ)**

1	そう思う	48.3%
2	そう思わない	21.6%
3	どちらともいえない	30.1%

**Q13\_5 困っている人々のためになるのであれば、自分のお金を寄付したいと思う(ひとつだけ)**

1	そう思う	32.7%
2	そう思わない	21.3%
3	どちらともいえない	46.0%

**Q13\_6 株式投資をすることは、株主として企業の事業を支えることにつながり、それが社会の発展にもつながる。(ひとつだけ)**

1	そう思う	37.4%
2	そう思わない	12.1%
3	どちらともいえない	50.5%

**「全員」がお答えください**

保護者とお金やりしについてどのくらいの頻度で会話をしますか。

**Q14\_1 自分のつきたい仕事や保護者の仕事のこと(ひとつだけ)**

1	ほぼ毎日話をする	6.5%
2	週に1回以上話をする	19.2%
3	月に1回以上話をする	33.5%
4	ほとんど話をしない	38.1%
5	一度もしたことがない	2.7%

**Q14\_2 将来の夢や進路のこと(ひとつだけ)**

1	ほぼ毎日話をする	4.1%
2	週に1回以上話をする	18.4%
3	月に1回以上話をする	40.6%
4	ほとんど話をしない	34.9%
5	一度もしたことがない	2.0%

**Q14\_3 家計や生活設計のこと(ひとつだけ)**

1	ほぼ毎日話をする	2.9%
2	週に1回以上話をする	11.5%
3	月に1回以上話をする	25.0%
4	ほとんど話をしない	52.2%
5	一度もしたことがない	8.4%

**Q14\_4 社会・政治・経済・金融・国際情勢等のこと(ひとつだけ)**

1	ほぼ毎日話をする	6.0%
2	週に1回以上話をする	19.3%
3	月に1回以上話をする	20.6%
4	ほとんど話をしない	43.9%
5	一度もしたことがない	10.2%

「全員」がお答えください

景気が良い時（好景気）と悪い時（不景気）では、物の値段・生産量や失業者の人数は一般的にどのように変化しますか。下表の①～④について正しいと思うものをお選びください。

	好景気	不景気
物価 →	(①)	(②)
生産 →	増加	減少
失業者 →	(③)	(④)
在庫 →	減少	増加

Q15\_1 ①にあてはまると思う言葉をお選びください。（ひとつだけ）

1	上がる	59.4%
2	下がる	40.6%

Q15\_2 ②にあてはまると思う言葉をお選びください。（ひとつだけ）

1	上がる	43.4%
2	下がる	56.6%

Q15\_3 ③にあてはまると思う言葉をお選びください。（ひとつだけ）

1	増加	16.1%
2	減少	83.9%

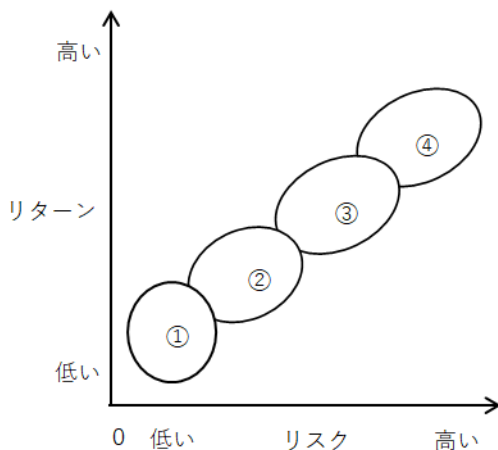
Q15\_4 ④にあてはまると思う言葉をお選びください。（ひとつだけ）

1	増加	85.0%
2	減少	15.0%

「全員」がお答えください

Q16 次の図は、金融商品のリスクとリターンの一般的な関係を示したイメージ図です。①～④にあてはまる金融商品をお選びください。（ひとつだけ）

※リスク（結果がわからない不確実な状態）は右に行けば行くほど高くなり、リターン（将来得られる収益）は上に行けば行くほど高くなります。



- ① 預貯金 預金と貯金。金融機関が利息の支払い、元本の返還などを預金者に約束する。預金保険制度などにより一定の範囲内で元本とその利息が保護される。
- ② 債券 国や企業などの発行体が、投資家から資金を借り入れるために発行する有価証券
- ③ 投資信託 投資家から集めたお金をひとつの大きな資金としてまとめ、運用の専門家が株式や債券などに投資・運用する商品
- ④ 株式 株式会社が資金を出資してもらった人に対して発行する証券

1	①預貯金 ②債券 ③投資信託 ④株式	52.5%
2	①預貯金 ②投資信託 ③債券 ④株式	35.3%
3	①債券 ②預貯金 ③株式 ④投資信託	12.2%

「全員」がお答えください

次の設問の正誤をお答えください。

Q17\_1 リスクが低くリターンが高い金融商品はない。(ひとつだけ)

1	正しい	47.4%
2	誤り	16.9%
3	わからない	35.7%

Q17\_2 投資をする場合、1社の株だけを買うことは、通常、株式投資信託(何社かの株式に分けて投資する金融商品)を買うよりも安全な投資である。(ひとつだけ)

1	正しい	13.6%
2	誤り	40.8%
3	わからない	45.5%

Q17\_3 日本のお札は、日本銀行だけが発行することができる。(ひとつだけ)

1	正しい	84.0%
2	誤り	4.3%
3	わからない	11.7%

Q17\_4 「1ドル=120円」から「1ドル=140円」になったら、「円高」である。(ひとつだけ)

1	正しい	21.0%
2	誤り	65.5%
3	わからない	13.5%

Q17\_5 円安は、一般的に、輸出が中心の日本の企業には有利だが、輸入が中心の企業には不利である。(ひとつだけ)

1	正しい	53.6%
2	誤り	19.1%
3	わからない	27.3%

Q17\_6 生活道路の補修や安全を守る警察・消防などの公共サービスは私たちが納めた税金をもとに政府が提供している。(ひとつだけ)

1	正しい	73.8%
2	誤り	6.8%
3	わからない	19.4%

Q17\_7 日本銀行は、物価の安定を実現するため、市場に出回る通貨の量や金利を調節している。これを金融政策という。(ひとつだけ)

1	正しい	67.5%
2	誤り	5.1%
3	わからない	27.4%

Q17\_8 国民が税金を納めることは、憲法で「国民の義務」と定められている。(ひとつだけ)

1	正しい	86.4%
2	誤り	4.0%
3	わからない	9.6%

Q17\_9 物やサービスを購入するときは、消費税を支払う。(ひとつだけ)

1	正しい	89.5%
2	誤り	3.3%
3	わからない	7.2%

Q17\_10 インフレーションとは、物価が上がり、例えば同じ100円で買っていたものが減る(または買えなくなる)ことである。(ひとつだけ)

1	正しい	58.2%
2	誤り	11.8%
3	わからない	29.9%

Q17\_11 将来の生活設計を考える上では人生において支出額の大きい費用について計画的に準備することが重要である。一般的に人生の三大費用と言われるのは、「住宅費」、「子どもの教育費」、「医療費」である。(ひとつだけ)

1	正しい	39.7%
2	誤り	16.6%
3	わからない	43.7%

**Q17\_12 18歳になった高校生が保護者に内緒で購入した商品の契約は取り消せる。(ひとつだけ)**

1	正しい	29.0%
2	誤り	38.6%
3	わからない	32.4%

**Q17\_13 電話で注文しただけでは口約束なので、売買契約は成立していない。(ひとつだけ)**

1	正しい	21.9%
2	誤り	48.3%
3	わからない	29.8%

**Q17\_14 「クーリング・オフ」という消費者を守る仕組みがあるが、すべての契約に適用されるわけではない。(ひとつだけ)**

1	正しい	59.6%
2	誤り	15.7%
3	わからない	24.7%

**Q17\_15 通信販売で気になっていた定期購入の商品が初回お試し価格で安くなっていたので、2回目以降の条件は確認せず  
に急いで購入した。(ひとつだけ)**

1	正しい	6.0%
2	誤り	64.4%
3	わからない	29.6%

**Q17\_16 会社を作って起業するのも働き方の選択肢の一つである。株式会社は資本金1円から設立することができる。(ひとつ  
だけ)**

1	正しい	40.8%
2	誤り	15.7%
3	わからない	43.5%

**Q17\_17 病気などで治療が必要となった時、健康保険証があれば医療費の一部を負担するだけですむのは、社会保険制度が  
あるからである。(ひとつだけ)**

1	正しい	71.3%
2	誤り	6.1%
3	わからない	22.6%

**Q17\_18 生命保険や損害保険は万一の備えとして用いられる。(ひとつだけ)**

1	正しい	80.5%
2	誤り	4.0%
3	わからない	15.5%

**Q17\_19 消費者トラブルの被害に遭った時の電話相談窓口として、消費者ホットライン(188番)がある。(ひとつだけ)**

1	正しい	53.4%
2	誤り	4.5%
3	わからない	42.1%

**「全員」がお答えください**

**Q18\_1 100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れました。それ以外、この口座への入金や出金がなかった場合、  
1年後、残高はいくらになっているでしょうか。次の中からお選びください(利息にかかる税金は考慮しないでお答えくだ  
さい)。(ひとつだけ)**

1	102万円	63.0%
2	102万円以外	13.7%
3	わからない	23.3%

**「全員」がお答えください**

**Q18\_2 Q18-1の口座では、5年後には残高はいくらになっているでしょうか。次の中からお選びください(利息にかかる税金  
は考慮しないでお答えください)。(ひとつだけ)**

1	110万円より多い	36.4%
2	ちょうど110万円	20.4%
3	110万円より少ない	9.9%
4	与えられた条件だけでは答えられない	8.6%
5	わからない	24.7%

「全員」がお答えください

成年年齢についてお聞きます。

Q19\_1 2022年4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたことを知っていますか。(ひとつだけ)

1	知っている	94.8%
2	知らない	5.2%

「全員」がお答えください

Q19\_2 成年年齢が引き下げられたことをどのように思いますか。(いくつでも)

1	大人として社会の一員になれることがうれしい	20.1%
2	クレジットカードなどの契約ができるようになってうれしい	17.6%
3	公認会計士や医師免許などの国家資格を取ることができるようになってうれしい	6.9%
4	大人としての社会的責任が生じるのでいやだ	34.8%
5	トラブルにあうかもしれないので不安	44.7%
6	契約や法律について勉強しなければならない	21.9%
7	その他	0.8%
8	なんとも思わない	21.5%

「全員」がお答えください

Q20\_1 中学校の社会科(公民的分野)や技術・家庭科(家庭分野)、総合的な学習の時間、特別活動などの授業でお金(家計・くらし)のことについて学びましたか。あてはまるものをお選びください。(ひとつだけ)

1	学んだ	50.0%
2	学んだと思うが、よく覚えていない	41.0%
3	学んだことはないと思う	4.6%
4	わからない	4.5%

Q20\_1で「1~2.学んだ」と回答した方がお答えください

Q20\_2 中学校の社会科(公民的分野)や技術・家庭科(家庭分野)、総合的な学習の時間、特別活動などの授業で学んだお金(家計・くらし)のことについて、該当するものをお選びください。(いくつでも)

1	家の収入と支出の管理	50.1%
2	人生設計と人生に必要な資金の計画	31.1%
3	キャッシュレス決済の仕組みと利用方法	35.4%
4	景気変動や経済政策	56.4%
5	金融商品(預金・債券・投資信託・株式など)の特徴	31.8%
6	事故・災害・病気などに備えるための保険について	22.6%
7	お金のトラブルの回避方法・対処方法	40.1%
8	起業・副業・兼業など将来の働き方	9.8%
9	環境問題・脱炭素社会・SDGsについて	47.7%
10	その他	0.7%

「全員」がお答えください

Q21\_1 学校の授業でお金のことについて教えてほしいですか。(ひとつだけ)

1	そう思う	79.8%
2	そう思わない	5.8%
3	どちらとも言えない	14.5%



Q21\_1で「1.学校の授業でお金の知識のことを教えてほしい」と回答した方がお答えください

Q21\_2 学校の授業で教えてほしいと思うお金のことについて、該当するものをお選びください。(いくつでも)

1	収入と支出の管理	55.5%
2	人生設計と人生に必要な資金の計画	53.0%
3	ローン（住宅ローン・教育ローン・奨学金など）の仕組みや活用方法	55.8%
4	キャッシュレス決済の仕組みと利用方法	51.0%
5	景気変動や経済政策	40.8%
6	金融商品（預金・債券・投資信託・株式など）の特徴や活用方法	47.6%
7	資産形成	44.8%
8	事故・災害・病気などに備えるための保険について	34.6%
9	お金のトラブルの回避方法・対処方法	59.6%
10	起業・副業・兼業など将来の働き方	42.0%
11	環境問題・脱炭素社会・SDGsについて	22.9%
12	その他	0.6%

「全員」がお答えください

Q22\_1 高校卒業後の進路について、あてはまるものをお選びください。(ひとつだけ)

1	就職したい	19.9%
2	就職せずに大学などに進学したい	77.4%
3	その他	2.7%

「全員」がお答えください

Q22\_2 将来、職業を選択する際に大事にしたいことを3つまでお選びください。(3つまで)

1	収入が高い	60.4%
2	好きなことを仕事にしたい	72.8%
3	社会的地位や名誉	6.8%
4	安定している	62.9%
5	仕事を通じて社会貢献できる	13.0%
6	起業したい（雇用されない働き方）	3.7%
7	自分の時間を十分に確保できる	35.0%
8	その他	0.4%
9	わからない	1.8%

<< 終了 >>